Role model interview

起・・・起業家モデル　企・・・企業（組織）内モデル

東京都

10 森永　のり子さん　起

中南勢エリア

1 池田　芙美さん　起
6 西井　勢津子さん　起
7 服部　美穂さん　企
9 松倉　敬子さん　起
17 中川　朝子さん　企
19 山田　ロサリオさん　起
22 呉　婷婷さん　企
23 大須賀　由美子さん　起
26 小林　聖子さん　企

北勢エリア

3 伊藤　理恵さん　起
5 川北　睦子さん　起
8 本田　美香さん　起
11 池田　奈桜さん　企
12 猪野　由里さん　起
13 大瀧　あずささん　企
15 梶浦　明日香さん　起
16 小﨑　麻莉絵さん　起
18 山田　知美さん　起
20 山原　裕美さん　起
24 加藤　果林さん　企
27 生野　幸さん　企
29 山川　裕未さん　企

伊賀エリア

4 井上　早織さん　起
30 横関　美香さん　企

東紀州エリア

2 石田　元気さん　起
14 垣本　美和さん　企
25 楠　珠里さん　企
28 永田　ゆかりさん　企

伊勢志摩エリア

21 秋吉　しのぶさん　企

2016年　ファイナリスト

1
特定非営利活動法人どんぐりの会
池田　芙美さん
起　中南勢

2
合同会社き・よ・り
石田　元気さん
起　東紀州

3
特定非営利活動法人マザーズライフサポーター
伊藤　理恵さん
起　北勢

4
株式会社アグリー
井上　早織さん
起　伊賀

5
株式会社Ｅプレゼンス
川北　睦子さん
起　北勢

6
株式会社地域資源バンク NIU
西井　勢津子さん
起　中南勢

7
万協製薬株式会社
服部　美穂さん
企　中南勢

8
林業女子会@みえ
本田　美香さん
起　北勢

9
株式会社真夢農和
松倉　敬子さん
起　中南勢

10
株式会社タマ
森永　のり子さん
起　東京都

2017年　ファイナリスト

11
株式会社鹿の湯ホテル
池田　奈桜さん
企　北勢

12
特定非営利活動法人みどりの家
猪野　由里さん
起　北勢

13
四日市市自治会連合会事務局
大瀧　あずささん
企　北勢

14
日本土木工業株式会社
垣本　美和さん
企　東紀州

15
常若（三重県で活動する若手職人のグループ）
梶浦　明日香さん
起　北勢

16
特定非営利活動法人いのち繋ぐプロジェクト
小﨑　麻莉絵さん
起　北勢

17
国立大学法人三重大学
中川　朝子さん
企　中南勢

18
特定非営利活動法人三重はぐくみサポート
山田　知美さん
起　北勢

19
特定非営利活動法人日本ボリビア人協会
山田　ロサリオさん
起　中南勢

20
Sakura Berry's Garden
山原　裕美さん
起　北勢

2018年　ファイナリスト

21
有限会社ゑびや
秋吉　しのぶさん
企　伊勢志摩

22
株式会社浅井農園
呉　婷婷さん
企　中南勢

23
だんだんキッチン
大須賀　由美子さん
起　中南勢

24
ミサワリフォーム関西中部株式会社
加藤　果林さん
企　北勢

25
特定非営利活動法人あいあい
楠　珠里さん
企　東紀州

26
中部電力株式会社
電力ＮＷＣＰ三重支社　総務部付
中電配電サポート株式会社 出向
小林　聖子さん
企　中南勢

27
株式会社 JSK
生野　幸さん
企　北勢

28
御浜土地改良区
永田　ゆかりさん
企　東紀州

29
株式会社萬来トレーディングコンサルタント
山川　裕未さん
企　北勢

30
光洋メタルテック株式会社
横関　美香さん
企　伊賀

保育の未来を変える！シングルマザー時代の苦労が原動力

1 池田　芙美 さん　Fumi Ikeda

起　中南勢

特定非営利活動法人 どんぐりの会（津市）
理事長

事業所
住所：三重県津市久居小野辺町 984-7
URL：http://www.npo-dongurinokai.org
社員数：9 名

業種
学童保育の運営

みえの輝く女子プロジェクト

Profile

- **手厚い学童保育で働く親をフルサポート**
- **独自のアイデアで利用料高騰を防ぐ**
- **地域の協賛企業は約 100 社に**
- **夢は医療や塾も一体化した複合保育施設**

講演・相談可能分野

☑仕事と家庭の両立　☐育ボス
☐人材育成　☐障がい者雇用　☑起業
☑NPO 設立　☐多文化共生
☐地域資源活用　☐防災
☑その他（学童保育の運営）

講演実績

- 2014 年「起業家が語る！成功する企業の秘訣」（特定非営利活動法人市民フォーラム21･NPOセンター）
- 2016 年「子どもたちが安心、安全に暮らせる地域社会の実現に向けて」（津市商工会議所）
- 2018 年「企業と協働のコツ 地域の課題解決にかける経営者の想い」（安城市・安城市民活動センター）

「私の使命」

働く母は「我慢する」問題を解消する学童保育

広域対応型学童保育『どんぐりの家』を 2018 年 3 月に新築移転した池田芙美さん(旧姓:木﨑さん)。2004 年に 3 歳の子を連れ離婚した経験が、学童保育の設立に繋がったといいます。「私は就きたい仕事を諦めるしかありませんでした。夜間や土日の預け先がなかったんです。我慢することが沢山ありました」。
だから『どんぐりの家』では、土日も夜間も児童を受け入れます。食事・おやつは、温かい手作りのものを提供し、食育や自然体験のプログラムも用意。2018 年からは乳幼児の一時保育や病児サポートも始めました。保護者が安心して働けるよう、仕事中は保護者に代わって子どもたちを育てます。

“看板”で手厚い保育を企業が応援

学童保育設立を決意した池田さんは、利用料を試算し頭を抱えました。「そんな時、ちょうど道路の“飛び出し看板”（飛び出し注意喚起看板）が目に入りました。それはボロボロに朽ちて、見捨てられていました。電柱みたいに広告を入れたらいいのに」。
池田さんは早速行政に確認の上、看板の設置・維持管理を行うことに。地域の企業に協賛してもらい、その収益を学童保育事業に充て、利用者の負担を軽減。協賛企業は約 100 社に、設置看板は約 350 体になりました。企業は社会貢献に加え、社員の福利厚生として『どんぐりの家』を利用できます。このプランは全国商工会議所女性会連合会の第14回『女性起業家大賞』特別賞ほか数々の賞に輝きました。

私流リーダーシップ

企業のサポートで魅力的な体験授業

『どんぐりの会』を応援する地元企業は、製造業から飲食店、お寺まで多岐にわたります。池田さんは企業とコラボレーションした“体験授業”も展開中。例えば住宅設備メーカー『LIXIL』と共催した出前授業や、地域のトイレ清掃活動、『久居ライオンズクラブ』主催の田植え、稲刈り体験など。「企業と繋がっている事が私達の強みだと思います。子ども達は色んな体験をして大きくなって欲しい」。
特に池田さんが力を入れているのが料理。手づくりの料理を食べて、自分でも料理ができるようになることを目指します。「保護者が『我が子が電子レンジで料理を作ってくれたり、家事を手伝ってくれたりしてビックリした』と感激されていました」。

“保育複合施設”を目指し社員と挑戦中！

“普通の家庭の子育て”を目指して一軒家を借り、2014 年に開始した『どんぐりの家』は、3 人の児童預かりからスタート。2018 年には 58 人の登録児童と、一時保育の子ども達で賑わっています。それに伴い社員を 9 人に増員。
池田さんは『認定病児保育スペシャリスト』の資格をはじめ、発達支援に関する資格や調理師免許まで率先して取得。「利用者さんに安心してもらいたい。さらに社員に資格取得を呼びかける目的もあります」。池田さんの夢は、「保育園／学童保育／病院／各種習い事が一体となった複合保育施設をつくること！」。シングルマザーで苦労した経験を武器に変え、働く親が嬉しい保育施設を開拓します。

（取材時：2018 年 8 月）

こんな講演・相談に対応できます

- **子どものあそび発達について**
- **子どもの食育について**
- **仕事と子育てが両立できる社会づくり**
- **企業とコラボした体験教室の開催**

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB は ここから

限界集落の漁村で女性の雇用を創出！

2 石田　元気 さん　Genki Ishida　起　東紀州

合同会社 き・よ・り（尾鷲市）
業務執行社員

事業所
住所：三重県尾鷲市早田町 6-3
URL：https://www.amikiyori.com
社員数：2 名

業種
鮮魚の通信販売・移動販売など

みえの輝く女子プロジェクト

Profile

- **東日本大震災を機に生き方を転換**
- **地域おこし協力隊員として尾鷲市に移住**
- **限界集落の漁村で女性の雇用創出に尽力**
- **現在は故郷宮城県で新聞記者として活躍中**

講演・相談可能分野

☐仕事と家庭の両立　☐育ボス
☐人材育成　☐障がい者雇用　☑起業
☐NPO 設立　☐多文化共生
☑地域資源活用　☐防災
☑その他（仕事創出の取組）

講演実績

「私の使命」

漁業の町で“陸の仕事”を創出する

おとと（鮮魚）の町、三重県尾鷲市。沿岸部はリアス式海岸が広がり、入江に点々と集落が営まれています。早田（はいだ）地区は人口 150 人を下回る限界集落。宮城県出身の石田さんは、2014 年に地域おこし協力隊員としてここへやって来ました。「尾鷲に来るのは初めてでした。東日本大震災から、ふるさと創生に関心を持ち、東京の仕事を退職して来ました」。
早田でのミッションは、“女性の雇用創出”。早田では『早田漁師塾』の取組により漁師の若返りに成功、今度は“陸上の仕事”のてこ入れが求められていました。石田さんは丹念に町を歩き、①町のみんなが魚を捌けること②定置網に依拠した多様な魚食文化が根づいていることに着目しました。

早田の鮮魚と女性のスキルを外へ売る

「早田の基幹産業である定置網漁は、とても不思議で面白いんです。何が獲れるか分からない。台風前後の 1 日で、網にかかる魚の種類がガラリと変わります」。石田さんは協力者と力を合わせ、この“何が獲れるか分からない魚”をネットで通信販売しようと考えました。名付けて『うみまかせ』。魚の捌き方や、美味しく味わう調理法を紹介したレシピも同梱することに。
さらに早田の女性が近郊の都市へ出張する、魚の捌き方教室『さばき会』も開催。2017 年には移動販売車も購入できました。これらの事業が始動したことで、ネット通販の保守／パッケージデザイン／料理コーディネート／商品発送／出張デモンストレーターなど、多彩な仕事が創出されました。

私流リーダーシップ

率先して汗を流し、地域住民と二人三脚。

「リーダーシップなんてとんでもない」と石田さんは笑います。それもそのはず、早田の高齢化率（65 歳以上が人口に占める割合）は 60%超で、町の大半が高齢者。それに右も左も分からない県外出身の若者だったため「早田の皆さんに、助けてもらってばかりでした」。『うみまかせ』の事業に必要な魚の仕入れは、「漁船に乗せてもらい、水揚げ作業を知るうち融通してもらえるようになりました」。
他の仕事を進めるにあたっても、“自分から率先してやってみる・どれだけ大変か体感してみる”ことをモットーに活動していたといいます。「汗を流していると、どこからか手を差し伸べてもらえました」。ある時は、自宅に夕食が置かれていたこともあったとか。

中身はお楽しみ！ 鮮魚『うみまかせ』発売中

地域おこし協力隊員の任期は最長 3 年。石田さんは 2017 年に任期満了し、地元宮城県へ帰郷しました。『き・よ・り』は後任の地域おこし協力隊員が引き継ぎ『うみまかせ』『さばき会』『移動販売』などの事業は現在も続行中。一方、石田さんは宮城で再就職しました。「早田で得た知識や経験が、実は今、大いに役立っているんですよ」。
尾鷲で魚が大好きになり、漁業関係の業界新聞記者に。『き・よ・り』の行く末も気にかけ、宮城で売上を確認し、アドバイスをするなどしています。離れていても心は早田の一員。早田が“家族が安心して暮らせる漁村。女性も男性もすべての人材が輝ける漁村”になるよう、自身が立ち上げた会社を今も見守ります。

（取材時：2018 年 8 月）

こんな講演・相談に対応できます

- **過疎地域の女性の仕事創出例**
- **Web を利用した産直品販売**
- **移住者の地域産業への挑戦**
- **移住者を迎える環境整備**

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB は ここから

乳幼児ママのスキルと知恵で、社会をあっと言わせたい！

3 伊藤　理恵 さん　Rie Ito　起　北勢

特定非営利活動法人 マザーズライフサポーター（鈴鹿市）理事長

事業所
住所：三重県鈴鹿市稲生 3-8-2
URL：http://motherslife.info
社員数：20 名

業種
子育て支援

みえの輝く女子プロジェクト

Profile

- **大学で社会福祉を学び、広告代理店に就職**
- **妊娠を機に退職し、孤独な育児を経験**
- **孤立するママを救うためサークルを結成**
- **ママとの協業企業は 200 社を超える**

講演・相談可能分野

☐仕事と家庭の両立　☐育ボス
☐人材育成　☐障がい者雇用　☑起業
☑NPO 設立　☐多文化共生
☑地域資源活用　☐防災
☑その他（ソーシャルビジネス）

講演実績

- 2018 年　「子育ても仕事でも自己実現を」（日本福祉大学）
- 2018 年　「ママだから気になる安全な農」（名城大学）
- 2018 年　「女性が活躍できる社会を作るには？」（日本福祉大学）

「私の使命」

孤立するママを社会の輪に入れる活動

「就労経験がなくても、1 時間しか働けなくても仕事できます！」。伊藤さんは地域のママに広く呼びかけます。設立した NPO法人『マザーズライフサポーター』の主な事業は、ママが休息できるカフェの運営／親子お出かけ情報誌の発行／企業とタイアップしたイベント開催／事業者の依頼に応える“ママの業務請負”など。そこから派生して、託児／清掃／企画／経理など多彩な業務が発生しています。
活動を支援する協力企業は約 200 社。“我が町にも取組を導入したい”と熊本県、福岡県、秋田県、静岡県など 12 の地域が名乗りを上げています。“ママの力を企業に供給する NPO”として、伊藤さんのアイデアは各方面から注目を集めています。

ママが社会に褒められ、認められるために

学生時代は社会福祉を専攻。「虐待児を救いたかった。でもいざ自分が母になると、虐待に共感できる気がしてぞっとした」。子どもの環境改善には、“ママが褒められること・認められること”が不可欠と伊藤さんは考えました。ママによる業務請負は、そんな社会問題の解決を目指す取組の一つ。「人材派遣業者ではママ労働者は失敗できませんが、うちの NPO はそうではありません」。
ママ労働者への事前教育は最低限。教育を含めて、企業に委ねます。これにも伊藤さんの体験が影響しているとか。「社会に出ると、思いのほか“あなたを育ててあげたい”と思ってくれる志の高い人に出会えます。そんな人にぜひ出会って欲しい、そして刺激を受けて欲しい」。

私流リーダーシップ

ママの知恵袋を寄せ集め企業へ提供

「ママはたくさんの知恵と人脈を隠し持っています。それらはもっと活用されるべき」。同NPOは、企業とママの協業で大小40の事業請負プロジェクトを現在進行中。例えば農作物の収穫・袋詰め／小売店での品出し／新商品開発／会員ネットワークの構築など。
現在、伊藤さんが注力しているのが「北九州の小売業さんからの依頼で“おんぶ紐ワークウェア（労働着）”を開発しています！」。もうすぐ伊藤さんの手を離れ、分社化予定の事業もありました。スーパーの生鮮食品売場に“ママがセレクトした産直野菜コーナ”を設置運営する『mamma（マンマ）』事業。「産直で 8%の利益を出しています」これは業界標準を大きく上回る利益率といいます。

サークル活動からママ社長が誕生！

『mamma』が分社化すると、1 人のママ経営者が生まれることに。同 NPO で進行中の大小プロジェクトには、それぞれに経理や企画担当を配置しており「プロジェクトが商業化可能と分かれば、新しい会社を興します。切り分けの際もスムーズです。キャリアが一度途絶えたママが会社経営者になれるなんて、素敵でしょう？」。
一方、就労初心者ママは小さなプロジェクトに参加。気負わず始められ、無理なく成長できるといいます。「小さく生んで大きく育てる。子育てと同じです」。伊藤さんの目下の悩みは「世の夫に全く理解してもらえない！」。会社ではなく“事業”に所属する新しい働き方の浸透を願い、伊藤さんは東奔西走します。

（取材時：2018 年 8 月）

こんな講演・相談に対応できます

- **子育て支援のビジネスモデル**
- **企業にママの力、導入事例**
- **ソーシャルビジネス事業紹介**
- **産直運営・安全な農について**

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB は ここから

「永遠に終わらないプロジェクトを裏方で楽しみたい」

4 井上　早織 さん　Saori Inoue　起　伊賀

株式会社アグリー（名張市）代表取締役
特定非営利活動法人あぐりの杜(名張市) ゼネラルマネージャー

業種
農業経営
障がい者就労継続支援

事業所
株式会社 アグリー
住所：三重県名張市南古山 2075 番地
URL：http://agreenouen.com　社員数：6名
特定非営利活動法人 あぐりの杜
住所：三重県名張市東田原 529 番地
URL:http://agrinomori.com　社員数：19 名

Profile

- **専業主婦から農業法人経営者に**
- **障がい者の自立に向けた農福連携を実現**
- **農業 × 福祉 × 地域資源の再生と活用を計画**
- **『あぐりの杜プロジェクト』始動**

講演・相談可能分野

☐仕事と家庭の両立　☐育ボス
☐人材育成　☑障がい者雇用　☑起業
☑NPO 設立　☐多文化共生
☑地域資源活用　☐防災
☑その他（キャリアアップ・キャリアデザイン）

講演実績

- 2017 年「女性経営者が答える～女性リーダーの悩み「あるある 100 選！」（三重県内企業）
- 2017 年「THE 名張移住物語」（三重県地域連携部）
- 2018 年「農業 × 福祉の連携で "農のある暮らし" を体験できるコミュニティーをつくる」（近畿大学）

「私の使命」

甘い青写真と厳しい現実 "農業経営"

大阪の主婦が農家に憧れ、夫と名張市へ移住し農業経営を開始。理想と現実のギャップに悩みながらも、女性の感性を活かした農業と福祉の連携構想を抱き、『NPO 法人あぐりの杜』を立ち上げ、障害者就労継続支援 B 型事業所を開業。その後応募した『WIT2016』のアワードで農福連携の取組を発表し『みえモデル賞』を受賞。それをきっかけに『あぐりの杜プロジェクト』を始動。
井上さんは今日に至るまでの道のりを「いつも転んでばかりだった！」と振り返ります。社運をかけて取り組むこのプロジェクトの目的は "楽しむこと"。「この杜に来て想像 (創造) 力を膨らませ、気の合う人と繋がりながら形にしていくことを私自身全力で楽しみたいと思います！」。

働きやすい職場環境を整えることはトップの責務

『アグリー』の社員は 7 人、『あぐりの杜』は 19 人。「農福連携で苦労したのは働く環境づくり」と井上さんは言います。「私は便器を発注してばかり」と自身を笑い飛ばしますが、障がいを持つ人にとって "落ち着けないトイレ" がどれだけ苦痛か、井上さんは支援を通して実感したと言います。
2017 年にはトイレ整備のために、クラウドファンディングで支援を募り、目標額以上の 260 万円超を達成。井上さん曰く「障がい者の働く環境を整えるというより、障がいがある人もない人も、皆が人間関係を含めて働きやすい職場環境を整えること。それがトップの責務だと経営者になってつくづく思います」。

私流リーダーシップ

永遠に終わらないプロジェクト

『あぐりの杜』周辺には、今にも崩れそうな古民家があります。井上さんは言います。
「さまざまな目的でここを訪れる人がいます。昔の職人が作ったガラスに興味がある人、古民家を研究したい建築関係者、古びた "かまど" を再生して究極の銀シャリを食べてみたい人。周辺の不耕作地では、むかしの里道を探検したい人、野菜や果樹を作りたい人、農のある暮らしを体験したい人なども。『あぐりの杜プロジェクト』のテーマは "物の豊かさから心の豊かさへ"。今の時代だからこそ大切にしたいものが、ここにあります。人の数だけ夢が膨らみ、仲間と繋がり、創造に満ちあふれた "永遠に終わらないプロジェクト" が始まります」。

やっぱり仕事は楽しくしないと！

井上さん流のリーダーシップについて尋ねてみると、こんな答えが返ってきました。
「今まで広告塔として表舞台に立っていましたが、これからは『裏方！』。私もスタッフも仕事は楽しむことで最大の能力が発揮できると思います。だから、私自身を含め組織全体で『働き方改革』に取り組んでいます。一言で『働き方改革』と言っても何をどんなふうに改革するのか、また何のために改革するのか？ 課題はたくさんあります。しばらくは表舞台よりも裏方にまわって、組織の基盤固めに注力し、そのための知識を身につける努力をしていきたいです」。
井上さんの夢の集大成という『あぐりの杜プロジェクト』。大きな夢への挑戦は今始まったばかりです。

（取材時：2018 年 8 月）

こんな講演・相談に対応できます

- **水耕栽培の技術と経営**
- **農福連携事業**
- **新規就農**
- **田舎移住**

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB は ここから

子育て中にキャリアを磨く！女性の IT 力 UP で地域に貢献！

5 川北　睦子 さん　Chikako Kawakita　起　北勢

株式会社 E プレゼンス（四日市市）
代表取締役

事業所
住所：三重県四日市市久保田 2 丁目10-13 杉善ビル 1F
URL：https://www.e-presence.jp
社員数：5 名　外部メンバー：5 名

業種
ブランドコンサルティング
広報代行・女性起業家支援
有料職業紹介等

みえの輝く女子プロジェクト

Profile

- **WEB を熟知したコンサル会社を経営**
- **新規事業の企画立案＆広報戦略に強み**
- **育児中等の女性が全員テレワークで勤務**
- **再就職を希望する女性会員は約 550 名**

講演・相談可能分野

☐仕事と家庭の両立　☐育ボス
☐人材育成　☐障がい者雇用　☑起業
☐NPO 設立　☐多文化共生
☐地域資源活用　☐防災
☑その他（チーム運営・テレワーク）

講演実績

- 2017 年「SNS 時代の必須ノウハウを学ぶ一日集中いなべ創業塾」（いなべ商工会）
- 2018 年　「理想のリーダー像との決別とチーム運営の醍醐味」（三重県警本部）
- 2018 年「男女と起業とパーソナルブランディング」（三重大学）

「私の使命」

経営者に潜在する “本質的な欲求” をブランドに

一級建築士から経営コンサルタントに転身した川北さん。ネット黎明期に個人でサイトを開設、その反響の大きさが今に繋がると振り返ります。「WEB の世界では、都会も地方も、男女の違いもありませんでした」。
子ども 2 人抱えたシングルマザーの状態で 2004 年に在宅で起業。クライアントから「同業他社との明確な違いを表現できるか？」というストレートな質問を受け、ブランディングに着目。ブランド構築のためのコンサルティングを開始。
「経営者自身がまず幸せ（満たされる）になることで、従業員もお客様も幸せになる！」と、持ち前のヒアリング力を生かし、経営者の本質的な欲求を引き出し、地域にも貢献できる事業計画立案に奮闘中。

多様な “実験”、結果をクライアントに提供

WEB の力に魅了され、今も WEB 戦略研究に余念がない川北さん。コンサルタント業に役立てようと、まず、自社自らが事業を実証することに努めています。川北さんの “欲求” は、「結果が見えないことへの挑戦（実験）」。企業理念に『予想を超える選択と、想定外を楽しむ余裕』を据え社内の基準とします。
2017 年には、公益財団法人三重県産業支援センターの『平成 29 年度女性の就職サポート事業（通称ママハタみえ）』を受託。運営に LINE@ を活用する実験を組み込みました。結果、働く意欲のある県内女性が 544 名も登録。「現代女性に身近なツールを使ったことが功を奏しました」。実験で培ったノウハウやデータをクライアントに還元しています。

私流リーダーシップ

まずは自分自身へのリーダーシップが大切！

メンバーは 10 名で、全員が女性在宅ワーカー。時々ある会議には、子ども同伴・オンライン参加も歓迎。正社員／パート社員／業務委託など、働き方は自分の意思で選択する。完全テレワークでの仕事は、川北さんが在宅で起業した経験で検証済み。
「でも、夏休み中は大変でした（泣）」。そこで 2018 年に、新たな実験を敢行。名付けて “夏休みはスローペース！で会社は継続できるか ?!”。そこで、新たな仮説が生まれました。「週 1 勤務でも高スキルで自己管理ができるママがいたら、事業は発展させられる」。そしてそんな女性を発掘＆育成することに。同年 10 月より子育て中の女性を対象に、自社で『在宅ワーカー養成講座』を開講しています。

社員は野放し ?! 個性こそ才能だと思うから！

川北さんのチームで働く女性達の職種は、WEB ディレクター／WEB コーダー（HTML・CSS 等）／デザイナー（WEB・DTP）／ライター。「私より能力や知識、経験がある人を採用したつもりです。言葉を変えると、偉大なる変人（笑）」。
未来の自社イメージをたずねると「変人島。変人達が勝手に、思い思いの村を造っていて、その個性を求める人が外からやって来てくれる感じ」とか。一般企業が掲げるようなビジョンはありません。「目標に縛られるのは苦しい。私には自由が必要なので、みんなもやりたいようにやってくれると嬉しい」。メンバーの “欲求” を引き出し、個性や才能を生かし、川北さん流の方法で強い組織を目指しています。

（取材時：2018 年 8 月）

こんな講演・相談に対応できます

- **■経営者の “欲求” に即したビジネスモデルの構築**
- **■在宅ワーカーの “週 1 活用” 提案**
- **■育児中女性の人材活用アイデア**

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB は ここから

私は“繋ぎ役”。都市からの資本で田舎をもっと輝かせる

6 西井　勢津子さん　Setsuko Nishii　起　中南勢

株式会社地域資源バンクＮＩＵ
（多気郡多気町）代表取締役

事業所
住所：三重県多気郡多気町丹生 1718-1
URL：http://niu-mon.com
社員数：２名

業種
地域資源プロデュース
サイクリング観光事業 他

みえの輝く女子プロジェクト

Profile

- **元東京・名古屋の営業ウーマン**
- **2010 年に多気町へ移住＆起業**
- **農山漁村の価値を新たに創出**
- **持続可能な農村作りの立役者へ**

講演・相談可能分野

☐仕事と家庭の両立　☐育ボス
☐人材育成　☐障がい者雇用　☑起業
☐NPO 設立　☐多文化共生
☐地域資源活用　☐防災
☑その他（キャリアアップ・キャリアデザイン
健康経営・自分らしい働き方提案）

講演実績

- 2015 年「地域資源バンクＮＩＵのフロンティア・デザイン」（立命館大学）
- 2017 年 「きらきら地域資源、活かすのは誰？」（三重県御浜町）
- 2017 年「多気町自転車のまちづくり、自転車で地域再発見」（自転車活用推進研究会）

「私の使命」

悩める農村にアイデアを注入、お悩みを解決！

田舎の耕作放棄地も、朽ちた道も、空き家も、西井さんにとっては「どれもキラキラした宝物に見えます」。東京・名古屋でのビジネスウーマンを経て、地元三重県で興した会社は、その名もずばり『地域資源バンク』。“農山漁村の仕事おこし”をミッションに「田舎と都会のパイプ役を担い、もう９年になりました」。
取組の一つに、地元飲食店の再生事業があります。集客にもシェフ不足にも悩む飲食店に“1day シェフ”システム導入のアイデアを提供、日々の情報発信役を担いました。西井さんのアイデアにより、新聞などの取材が相次ぎ、シェフ志望者も来店客も大幅 UP。途中、自身に乳がんが見つかる試練もありましたが、乗り越えもうすぐ５年になります。

『健康経営』で都会の資本を田舎に呼び込む

会社は代表取締役の西井さんと、夫で取締役の匠さんの 2 人組織。匠さんは北京オリンピックのマウンテンバイク（MTB）日本代表チーム監督。その経歴を活かし、多気町内の観光サイクリングツアーなども企画開催中。銭湯を改装した事務所には、自転車がズラリと並びます。
2013 年には自転車部品の世界的メーカー『シマノ』が西井さんの会社と業務提携しました。「夫は体育学博士。自転車と健康を関連づける研究データを提供しています」。西井さんが目指すのは、農村と“都会の会社”が繋がる仕組みづくり。
2018 年には『味の素冷凍食品株式会社』の従業員研修が決まり、西井さんは地域の資源と企業のニーズをつなぐコーディネートで奔走しています。

私流リーダーシップ

多様な仕事をつくり、若者が住み良い田舎に

「農村は食糧を生むだけの場所ではありません。例えば疲弊した都会人が元気を取り戻す保養地にもなり得ます。すると農村で暮らす人に、多様な仕事が生まれることに」。
西井さんが多気町で事業を始めてから、地元の若者 4 人に新たな仕事がもたらされました。「中でも MTB 教室のアシスタントをしてくれている地元の青年は、今や MTB で活き活きしています。“こんなユニークな仕事に、この町で就けるとは思わなかった”と」。
加えて西井さんが推し進めるのが、雇用ではなく“プロジェクトパートナー”と名付けた、事業委託の関係。西井さんは『働き方フォーラム』の開催を通じて、“雇われない生き方”も提唱しています。

個人・企業と繋がる西井流“アライアンス”

西井さんは“自分らしい生き方”を考える『働き方フォーラム』を 2015 年に開催。10 社もの IT 企業や若手フリーランサーが移転した徳島県神山町を紹介。田舎で自分らしく働く生き方について、若者と一緒に考えました。
「気づくと私がリーダーになっちゃうので『それは危ない、こわいことだ』と肝に銘じています。私のリーダーシップは、私がリーダーにならないこと。西井さんの事業は、飲食店の運営管理でも、働き方を考える事業でも「“アライアンス（提携）”をつくります。“雇用”ではなく“共同”で私達は事業を進めていきたい」。都市の企業とも、地元の個人とも等しく繋がり、西井さんは田舎の新しい価値を内外に広く提供しています。

（取材時：2018 年 8 月）

こんな講演・相談に対応できます

- **■企業の『健康経営』のサポート**
- **■『自分らしい働き方』サポート**
- **■農業経営者に『経営ゲーム』**
- **■働くママの社内環境作り事例**

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB は ここから

母になって変えるのは、私の生き方ではなく“会社”だと思う

7 服部　美穂 さん　Miho Hattori

企　中南勢

万協製薬株式会社（多気郡多気町）
品質管理部

事業所
住所：三重県多気郡多気町五桂 1169-142
URL：http://www.bankyo.com
社員数：170 名

業種
医薬品・医薬部外品
化粧品製造

Profile

- **大阪府のメーカーで研究職に従事**
- **夫の転勤に伴い三重県に転居**
- **理系職を求め現職場に再就職、妊娠**
- **２児を育てながら職場改善に取り組み中**

講演・相談可能分野

☑仕事と家庭の両立　☐育ボス
☐人材育成　☐障がい者雇用　☐起業
☐NPO 設立　☐多文化共生
☐地域資源活用　☐防災
☑その他（ワーク・ライフバランス）

講演実績

- 2016 年　「女性の再就職に関するサロン」
  ～女性が活躍する職場について
  （三重県・株式会社百五経済研究所）
- 2016 年　「企業と女子学生との意見交換会」
  ～男女ともに働きやすい職場とは
  （三重県・株式会社百五経済研究所）

「私の使命」

出産後も働く道をリケジョ目線で開拓

「研究職には整った設備や環境が不可欠。リケジョの私は、組織で働く道が最適だと考えました」。
妊娠・出産を経て、現在は小学４年生と１年生の子育てに励む服部さん。夫婦ともに県外者なので「ジジババの手助けなしで、勤め続ける方法を模索してきました」。勤務先は 1996 年に移転・再操業したフレッシュな企業。服部さんが育休を取得した当初、取得経験者はまだ２人でした。「そのころ印象的だったのが、社長面談の言葉です。『会社を利用して、やりたい事を叶えて欲しい』と」。その言葉通りに実践してきたと笑顔で振り返ります。
「社長の隙を見計らい、要望を直訴します。特に社長の筋トレ中は絶好のチャンス。耳は空いていますからね」。

子育て社員が快適に働ける会社に

万協製薬はこれまで、子育て支援に関する取組みで、数々の賞を受賞。代表的なものには、内閣府『子どもと家族・若者応援団表彰』2014 年度内閣総理大臣表彰など。受賞理由には、社内制度の充実も含まれます。例えば 3 年取得可能な育児・介護休業制度、小学校卒業まで可能な時短勤務制度など。
「これらは私達パパママ社員を見て、会社が新たに導入してくれた制度。仕事と家庭の両立で長年苦労してきた専務（社長の妻）・松浦慶子さんの働きかけも大きいです」。
せっかくの制度が形骸化しないよう、また働き方改革を一層進めるため、服部さんは「株式会社ワーク・ライフバランスの認定コンサルタント」の資格を取得。より良い企業風土の醸成に努めています。

私流リーダーシップ

働く私達の悩みは“会社の課題”

「面談などの折に触れ、私が求めていることを会社に伝えてきました」。育休から復帰した服部さんは、同じ立場の社員と情報共有したいと会社に相談。『万協母の輪会』が結成されました。
その後、育児の悩みが男性社員にも共感されることを知り、『万協パパママ会』へと拡大。会で寄せられた疑問に応えるため、『ワークライフバランス推進委員会』の委員長になり「パパの育休取得説明会」「ライフプランセミナー」なども開きました。
「私達の悩みは“会社の課題”として社長に伝え、解決に必要な予算をいただき、問題をクリアしています」。
服部さんの取組は社外にも伝わり、三重県少子化対策推進県民会議の委員としても積極的に発言しています。

役割分担を固定しない。活動は自由！

『万協パパママ会』にはメンバーの名簿も役割分担も「ありません」。
「理由は、その方が誰にも負担がかからず、会が長く持続できると思うので。私は声掛けをして、雰囲気づくりをしている程度」。
声掛けによる雰囲気づくりは、所属部署でも同じと言います。服部さんの業務内容は現在、製品原材料の品質試験。6 人いるメンバーのうち、時短勤務者は服部さん１人です。
「仕事はリーダーから個々に振り分けられますが、お互いの仕事内容を“見える化”し、声掛けし、仕事の混み具合を相互理解しています」。
実際に職場にお邪魔すると、とても和気あいあいとしたムード。
「私達企業の取組みが、もしも会社の外にも広がるならとても嬉しいです」。

（取材時：2018 年 8 月）

こんな講演・相談に対応できます

- **■自社の働き方改革 取組事例の紹介**
- **■男性の育休取得と課題解決**
- **■祖父母を頼れない子育ての工夫**
- **■社内任意サークルの持続化アイデア**

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB は ここから

森に新しい風を！女性生活者目線で三重の木を活用中

8 本田　美香 さん　Mika Honda　起　北勢

林業女子会@みえ（桑名市）
代表

事業所
住所：三重県桑名市長島町松ヶ島 733-76
会員数：約３０名

業種
森林・林業に関する情報発信、地域材利用の提案

みえの輝く女子プロジェクト

Profile

- **三重県職員で林業普及指導員**
- **2014 年に『林業女子会@みえ』を結成**
- **三重の木を暮らしに取り入れる提案**
- **森や林業を女性の視点から考える**

講演・相談可能分野

☑仕事と家庭の両立　☐育ボス
☐人材育成　☐障がい者雇用　☐起業
☐NPO 設立　☐多文化共生
☐地域資源活用　☐防災
☐その他

講演実績

「私の使命」

美しい三重の木を、もっと暮らしに身近に

2010 年に京都で始まった『林業女子会』。取組は各県に広がり、三重県では 2014 年に『林業女子会@みえ』が始動。県の林業技師として働く本田さんが代表を務めます。
『林業女子会@みえ』のメッセージは、“三重の木を、もっと暮らしに身近に”。「三重の木と聞くと、住宅用材が思い浮かぶかもしれません。だけど身近でおしゃれな家具や生活雑貨も実はあるんですよ」と本田さんは伝えます。
2017 年には三重県立美術館で『三重の木の椅子展』を開催するなど、木工展覧会を隔年で企画。そのほか材木が生まれる場所＝三重の森を訪れ、林業を知る見学会も開催しています。いずれも“ママも子も、どちらも楽しめる”ことを大切にしています。

“木”の仕事を増やせば山は元気に蘇る

『林業女子会@みえ』の活動は①ワーキング（月 1 回）、②『美杉なぁなぁまつり』への出展（年 1 回）、③展覧会開催（隔年）、④森の見学会（不定期）。活動を通じて、林業の衰退や森の荒廃を考えます。「山の麓町が活気づけば、森も元気になるはず」。本田さんは東員町の新興住宅地育ち。学生時代は、よく造成工事を眺めていたといいます。「森を守りたい。森の案内人になろう、と思い描いていました」。
その後、農学部を卒業。植木職人を経て三重県の林業技師として就職。津農林水産事務所に勤務していたころ、ちょうど映画『WOOD JOB ！』の撮影で地域が盛り上がり、「今なら女子会を結成できそう。そんなワクワクする熱気が後押しとなりました」。

私流リーダーシップ

女子会員のワザと知恵で林業廃材を活用

会の活動資金や資材は自分達で捻出しています。そこで頼りになるのが、会員の女子達。三重の森に興味を抱く一般女性から、製材所の女性経営者、林業関係の元職員といった“森のエキスパート”まで約 30 名が揃います。「チェンソーを使えたり、製材所に知り合いがいたりする人も」。
そんな縁を活かし、2017 年には製材所から“おが粉”を譲り受けました。目的は“染料”として使うため。糸を染め、コースターを制作。そのコースターを元手に地元の企業や団体へ支援を呼びかけ、活動資金を集めることに成功。また 2018 年の『美杉なぁなぁまつり』で、ウェルカムボードづくりの体験会を開催した際も、製材所から提供を受けた端材を活用しました。

女性・子ども・林業者みんな森の中で笑顔に

会員の力を借りるには、参加して“楽しい会・興味深い会”にする必要があると本田さんは考えます。「チラシづくりが得意な方、会計に明るい方など、色々な方がいるはず。彼女達が秘めた力を発揮できる場にしたい」。子育てに役立つ／人の縁が広がる／自己実現できる会になるよう心がけます。
そんな女子会の活動は、森で作業する林業従事者にも良い効果をもたらしているとか。「子連れ見学会を開催すると、林業家の方々の表情が輝きます。『すごーい』『カッコイイ！』って女性や子ども達に言われて、とても誇らしそう。彼らも孤独だったことに気づきます」。森と女性。両者をマッチングして、未来を明るくする新しい風を起こします。

（取材時：2018 年 8 月）

こんな講演・相談に対応できます

- **■林業女子による“木育”導入アイデア**
- **■林業に脚光を当てる女性目線の企画**
- **■子ども向け体験イベントの開催**
- **■女性向け林業体験会の企画**

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB はここから

61 歳で起業！農家のお母ちゃんがレストラン経営者に

9 松倉　敬子 さん　Keiko Matsukura

起　中南勢

株式会社 真夢農和（まむのわ）（松阪市）
代表取締役

事業所
住所：三重県松阪市久保町 1821-33
社員数：10 名

業種
農家レストラン

みえの輝く女子プロジェクト

Profile

- **『深緑茶房』（松阪市）の茶葉生産者**
- **家業を子世代に譲り飲食店経営に挑戦**
- **専業農家 7 軒で共同出資し 2013 年開店**
- **新鮮野菜たっぷりのランチが評判**

講演・相談可能分野

☑仕事と家庭の両立　☐育ボス
☐人材育成　☐障がい者雇用　☑起業
☐NPO 設立　☐多文化共生
☐地域資源活用　☐防災
☐その他

講演実績

「私の使命」

子育て終えて、憧れだった夢に挑戦！

平均年齢は 64 歳。専業農家の“お母ちゃん（Mom ／マム）”が丹精込めた手作りランチが大人気の自然派レストラン『真夢農和（まむのわ）』は、他県の農業経営者・農業政策関係者からも熱い注目を集めています。
代表の松倉さんは、日本茶農家のお母ちゃん。2013 年に 61 歳でレストランを創業したきっかけを「農業の主力を子世代に譲り、日々のやりがいを失ったから」と振り返ります。
松倉さんの周りには、お茶農家をはじめ、米／野菜／卵／果物など、同世代の農家仲間が多数。「隠居生活で、テレビの前がいつもの席。こんな生活をこの先ずっと送るの ?! と想像したら悪寒がした。新しいやりがいを見つけたかった」と振り返ります。

仲間の新鮮野菜が味方。県外の産直品も

松倉さんは 21 歳で結婚して以来、農業一筋。「もちろん経営は初めて」。レストラン構想を農業仲間に話すと、「『実は私もカフェをやってみたかった』と、ひとりが手を挙げてくれました」。さらに出資を申し出る仲間も現れ、農家 7 軒の共同事業としてスタート。
主力商品は、松倉家がつくる『深緑茶房』の緑茶と、近隣農家の採れたて農産品。営業中に野菜が足りなくなると、電話して即座に収穫野菜を持ち込んでもらうことも。さらにメンバーの家族が声かけをし、全国の農家仲間も協力してくれることになりました。北海道のアスパラ、青森のゴボウ、長野のトウモロコシなど、どれもスーパーではお目にかかれない大きさ・太さの品で、素材の良さが光ります。

私流リーダーシップ

メンバーが力合わせ“できること”を提供

共同出資した 7 軒の農家は、それぞれが“できること”をレストランに提供しています。例えば、料理の腕を活かし厨房に立つ人、卵・果物などの農産品を納入する人など。飲食店営業に必要な『食品衛生責任者』資格は、7 人みんなで取得しました。
松倉さんはリーダー役と、店周辺の土地造成・建物の修繕を担当。「農家はどこも昔から、山を開墾して、納屋を建て、棚を作り付け、全部自分で切り拓いてきました。だから農家は何でもできるんです。重機の扱いは慣れたもの」。皆で一つの事業を維持するために、作ったルールはたった一つ。「不満がある人は、大きな声で言う」。長い付き合いの中で育んだ、メンバー同士の“あうんの呼吸”で歩んでいます。

輝くプラチナ世代「私達は今もイケイケ！」

店は年々ランチ数を増やすほどの盛況ぶりですが、経営は「正直大変。難しい。借り入れてばっかり」という松倉さん。創業メンバーのひとり、農業経営者の大西さんは資金面から店を支えます。「私にとって、店は大切な安らぎの場。なくなると困るでなァ」。
ほかにも店の繁忙期と見ると、どこからか手伝いに来る“ご近所さん”も。さまざまなシニア層が、それぞれに松倉さんらの様子を気にかけている様子。店が TV で紹介されると、その傾向は一層顕著になるそう。「三河安城から自転車に乗って、70 歳の女性が激励に来て下さったことも！」。第二の人生もアクティブに。「私達イケイケやもんね！」と自信たっぷりに笑う姿が印象的でした。

（取材時：2018 年 8 月）

こんな講演・相談に対応できます

- **■六次産業の取組事例**
- **■プラチナ・シニア世代の起業**
- **■農家女性の“生きがい”創出**
- **■自身の育児・農業の紹介**

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB は ここから

10 森永　のり子さん Noriko Morinaga 起 東京都

株式会社 タマ（東京都港区）
代表取締役

事業所
住所：東京都港区高輪 2-15-31 高輪グランドパームス 210
URL：http://t-a-m-a.jp
社員数：４名

業種
真珠に関する製品企画・販売 他

みえの輝く女子プロジェクト

Profile

- **会社員時代は服飾デザイナーに師事**
- **離婚し再出発する際に真珠に着目**
- **真珠の宝飾品を企画開発しヒット**
- **真珠の未来のため陸上養殖に挑戦中**

講演・相談可能分野

☐仕事と家庭の両立　☐育ボス
☐人材育成　☐障がい者雇用　☑起業
☐NPO 設立　☐多文化共生
☐地域資源活用　☐防災
☑その他（キャリアアップ・キャリアデザイン、社会人としての教養、ワークショップの企画・運営）

講演実績

- 2008 年～2018 年　「フォーマルについて」（文化女子大学）
- 2008 年　「真珠産業について」（横浜国立大学）
- 2013 年　「真珠と社会人としての教養／フォーマルについて」（中国国立東北師範大学）

「私の使命」

ファッション業界を経て真珠に携わり30 年

真珠宝飾品の開発販売に留まらず、生産段階からも深く携わり、真珠のスペシャリストとして活躍中の森永さん。キャリアの始まりは、ファッション界での活躍でした。
会社員時代には、皇后美智子氏の衣装を手がけたことで知られるジュン・アシダ氏や植田いつ子氏に学び、商品企画から開発販売までを担当。結婚退職を経て、離婚し再出発する際、「たまたま頼まれて真珠のアクセサリーを作り、喜んでいただけたので」と自身のブランドを立ち上げ。
商品は女性ファッション誌やテレビの通販番組でも多く取り上げられました。その間に再婚し「家庭との両立で大変でした」としながらも、顧客にオンリーワンの真珠宝飾品を提案し、ふだん使いの真珠のアクセサリー＆ジュエリーの企画販売を手掛けてきました。

海洋環境に左右されず、美しい真珠を安定的に

宝飾品の開発販売が順調に進んでいた 2012 年ごろ、「真珠産業への報恩と貢献がしたい！」という想いが強くなりました。欧米では働く女性のステータスシンボルである真珠が、日本では冠婚葬祭の宝飾品となっていることも変えたいと。
「100 年後の未来の女性に真珠をつなげる」をコンセプトに、これまで培われてきた養殖真珠の伝統・文化と、最新のサイエンス・テクノロジーを組み合わせた陸上養殖の実現に向けて、2016 年に株式会社タマを設立。森永さんの事業計画は、2018 年にビジネスプランコンテスト『テックプランター第 2 回マリンテックグランプリ』で日本財団賞を受賞。発表は名だたる企業に注目され「実現に向けた道が見えてきました」。

私流リーダーシップ

理解者の協力で陸上養殖構想は前進中

『WIT2016』の女性活躍アワードでは、“真珠の故郷・三重からイノベーションを！”と呼びかけた森永さん。
「実は同年、もう一つのタネをまいていました」。それが先のビジネスプランコンテスト。「その時は残念ながら落選しましたが、スピーチをきっかけに、ある事業家さんから支援を受けられることに」。その人は森永さんの“夢の実現”に必要な人脈を繋いでくれたといいます。詳しいことは技術的な契約をしていることも多く公開できないことが多いそうですが、ここまで続けられた理由を「“真珠愛”のおかげ！」と森永さんは分析します。
「私が持っているものは、ただ一つ。誰よりも燃え上がる“熱”が、道を切り開いてくれたのだと思います」。

熱い“真珠愛”から広がる未来への可能性

最近は大手企業さんからも声をかけてもらうことが増えた！と喜ぶ森永さん。「共同研究に向けて準備中」と話してくれました。海外では天然の魚に対する信頼度が低く、養殖の魚を好む傾向にあり、高価でもトレーサビリティーの高い魚を食しているそう。「真珠の陸上養殖は食料生産にもつながる！」と、意気込みをのぞかせていました。
「真珠は“文化と技術の融合”です。私が長年担ってきたのは真珠文化醸成の部分。真珠文化をさらに前進させたい」と森永さんは目を輝かせます。2018年には「青山学院大学　ワークショップデザイナー育成プログラム」で学び、コミュニケーションツールであるワークショップデザイナーの資格も取りました。

（取材時：2018 年９月）

こんな講演・相談に対応できます

- ■真珠の歴史・文化・品質の解説
- ■「大人の女性」教養としての装い
- ■ワークショップのデザイン・運営

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB は ここから

入社２年目で主任へ ～社員へ“改善のおもてなし”で職場環境 UP！～

11 池田　奈桜 さん　Nao Ikeda

企　北勢

株式会社 鹿の湯ホテル（三重郡菰野町）
広報企画・接客係主任

事業所
住所：三重県三重郡菰野町菰野 8520-1
URL：http://www.sikanoyu.co.jp
社員数：43 名

業種
旅館業

Profile

- 高校時代に菰野町の魅力を知る
- 新卒で現職場に入社。接客係に
- ２年目で接客主任に。広報企画も兼任

講演・相談可能分野

☐仕事と家庭の両立　☐育ボス
☑人材育成　☐障がい者雇用　☐起業
☐NPO 設立　☐多文化共生
☑地域資源活用　☐防災
☑その他（キャリアアップ・キャリアデザイン
宿泊業の業務効率化）

講演実績

「私の使命」

これでいいのか ?! 仲居さんの長時間労働

「菰野の魅力を多くの人に伝えたくて、この仕事に就きました」。池田さんは高校生の時に授業で菰野町について学び、鹿の湯ホテルへ就職しました。1 年目は接客・配膳係に従事。「仲居の仕事は、拘束時間が長いことで有名。働いているうちに、変えたい点が色々と見えてきて」。2 年目には接客係主任になり、業務改善にも着手しました。
「当時 19 歳だった私が周りから信頼を得る方法が『働きやすくなったね』と言ってもらえることくらいだったんです」。池田さんの業務改善の一つが、客室に“湯かご”を設置したことです。かごの中には宿泊者 1 人分のアメニティを入れます。こうすることでスタッフが、隙間時間に作業を進められるように。「客室内で急いでやるべき仕事が減り、負担が軽減されました」。

思いついたら即実行！ 取組は社外にも

2018 年 6 月には、近隣施設で働く若手社員でつくる「湯の山温泉結びの会 いずみ」を発足。「いずみ」は地域の PR と、社員同士の交流を兼ねています。発案から協力者の呼びかけ、イベント実施まで、わずか 2 ヵ月というスピード実現でした。発案のきっかけは、4 月に開催された湯の山温泉開湯 1300 年イベント。若手社員同士が力を合わせることになり「せっかくの友好が、1 回で終了するのはもったいない！」と大急ぎで企画書を作成して説明に走ったとか。
池田さんに働きがいについて聞くと、「もちろんお客様に喜んでいただけること」。その一方で「みんなの“しんどい”が和らいだり、“楽しい”が広がったりするのを見るのも、やはり嬉しいんです」。

私流リーダーシップ

若さを武器に、若い社員に寄り添う

接客係は現在、社員 10 名と学生アルバイトが 4 名。池田さんは、14 名をまとめる主任として奮闘しています。社員は 20 歳前後と若く、部下との接し方も工夫しています。「若い子は遊びたい盛り。プライベートの“楽しい”をできるだけ優先してあげられるよう、シフト調整や仕事の負担軽減に取り組んでいます」。加えて「“仕事も楽しい”と思ってもらいたい。それも同世代の私だからできる仕事だと思っています」。
名付けて『社員へのおもてなし』。それにはホテルが 2017 年にオープンした別館ワインバー『BOOK＆WINE』も一役買っているそう。「仕事終わりに部下と腹ごしらえに。恋バナなど、色んなトークをして、相互理解を深めています」。

職場を変える楽しさを伝えたい

「先日は接客係で『ペルソナ分析』に取り組みました」。宿泊客のデータをもとに、架空の一家“ペルソナ”を作り上げ、どんな新サービスを提供できるか、意見を出し合ったといいます。「小さなアイデアも一つずつ書き連ねました」。これで社員にもたらされたのが、職場を“変える楽しさ”の発見。
「職場はもっと良くなるはず。縁の下から支えて実現したい」。この発言の裏には、頼れる上司の存在があるようです。総括の野口員敬さん。親子ほど年の違う 2 人ですが、まるで長年の盟友のよう。池田さんはかしこまるどころか、すっかり安心しているようです。部下を支える思いやりの風が伝播し、池田さんへ、そしてさらに若い世代へと吹き渡っていました。

（取材時：2018 年 8 月）

こんな講演・相談に対応できます

- ■宿泊業の業務改善（動線の見直し・業務効率化など）
- ■やりがいの見出し方・仕事の向き合い方
- ■新入社員・若手社員のモチベーション向上
- ■地域の魅力発掘とその発信

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB は ここから

12 猪野　由里 さん　Yuri Ino

起　北勢

特定非営利活動法人 みどりの家（四日市市）
理事長

事業所
住所：三重県四日市市日永四丁目二番４１号
URL：http://www.npo-midorinoie.org
社員数：１８名

業種
障がいなどを持つ人の就労・生活支援、職業訓練、雇用・余暇活動支援

みえの輝く女子プロジェクト

Profile

- 音楽家を目指しアメリカへ留学
- ボランティアとエコロジーに傾倒
- 帰郷し環境プランナーとして起業
- “誰もが働きやすい仕事”を創出

講演・相談可能分野

☐仕事と家庭の両立　☐育ボス
☑人材育成　☑障がい者雇用　☑起業
☑NPO 設立　☐多文化共生
☐地域資源活用　☐防災
☐その他

講演実績

- 2006 年「環境福祉事業の展望 - リサイクルの新展開」（一般財団法人保健福祉広報協会）
- 2008 年「障がい者の自立活動支援」（NPO 法人市民ネットワークすずかのぶどう主催）
- 2008 年「障害者の自立を成功させたリサイクルとは」（株式会社岩井化成）

「私の使命」

ごみ削減・就労支援・増客が実現！

音楽の才能が認められ、高校は東京で、大学はアメリカで学生生活を送った猪野さん。「アメリカでは障がいを持つ人が臆せず外出し、人生を謳歌している姿に感動しました。それを支えるボランティアがとても活発なことにも」。その影響を受け、卒業後は地元四日市市でエコとボランティアをミッションに起業。
約 20 年経ったいま、猪野さんは自身が築いた『ハイブリッド型地域サービス』の良さを説き、普及を広く呼びかけます。それは、障がい者・一般生活者・地域の企業・行政のみんなに“イイこと”がある仕組み。企業には増客が、行政にはごみ減量がもたらされているとか。鈴鹿市と四日市市で実際に稼働中の仕組みについて聞きました。

ごみ・不要品回収で商業施設の集客力 UP ！

1997 年に環境プランナーとして起業し、企業の CSR 活動をコーディネート。「それと並行して、障がいを持つ人と一緒にエコステーション（廃品回収・フリーマーケット）の運営もしていました」。このエコステーションが、商業施設の集客装置になり得ると確信した猪野さんは、各企業に提案。はじめに『鈴鹿ハンターショッピングセンター』が、続いて『日永カヨーショッピングセンター』が導入しました。両ショッピングセンターでは障がい者への理解が進み、採用も開始。
さらに猪野さんは 2006 年に、回収した食品トレーをペレットに再生する工場も創業。これには“事業ごみが削減できて助かる”と『スーパーサンシ』が敷地を提供しています。

私流リーダーシップ

誰でも働きやすいカタチに“仕事をデザイン”

商業施設のエコステーションを成功させた猪野さんは、2000 年に障がい者の就労を支援する『みどりの家』を開設。エコステーションと食品トレーの再生工場を、就労困難者の職業訓練所にしました。また商業施設に対し、ショッピングカート回収や店内清掃などの仕事について、『みどりの家』出身者の雇用受け入れを提案。
さらに 2012 年には、食肉加工のプロ·堀内強美氏を招き、『みえ豚ジャーキー』を開発。その加工所も作業所として開業しました。「寄付の呼びかけや陳情など、支援を求める方法は色々あると思います。私は双方にとって win-win の仕組みを考え提案をする方が、大きな成果を上げられると思い、実践しています」。

市民には“ボランティアに参加した喜び”を

猪野さんの『ハイブリッド型地域サービス』は、一般市民にも“イイこと”があります。それは“不要品をごみにせず済んだ”という充足感。“善い行いをした”というボランティアの喜びをもたらします。猪野さんがこれらの取組を始めて 20 年。この 20 年で世相は変わり、『みどりの家』利用者の悩みにも変化があるといいます。
「近年は長期の引きこもりや鬱病などで就労困難な人が増えました」。思うように働けない個々の事情を汲み、長い目で支援します。「無事に就職できた人が、誇りに満ちた顔で報告に来てくれるのを見るのが私の喜び」。“三方良し”以上の成果をもたらすこの取組が、日本中に広がることを猪野さんは願います。

（取材時：2018 年 8 月）

こんな講演・相談に対応できます

- ■障がい者就労支援に係る起業体験
- ■障がい者福祉と環境ビジネス
- ■企業 CSR とリサイクルビジネス
- ■障がい者の自立活動支援の実態

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB は ここから

自治会長と歩み 14 年。目指すは“防災先進シティ四日市”

13 大瀧　あずさ さん　Azusa Otaki

企　北勢

四日市市自治会連合会事務局（四日市市）
事務局長

事業所
住所：三重県四日市市諏訪町 1-5 四日市市役所北館 1 階
社員数：２名

業種
自治会事務

みえの輝く女子プロジェクト

Profile

- **専業主婦から自治会事務局のパート職員に**
- **翌年の組織変更で、事務局を一手に任される**
- **防災における女性目線の必要性を自治会に進言**
- **女性の視点満載の避難所運営手引きを制作**

講演・相談可能分野

☐仕事と家庭の両立　☐育ボス
☐人材育成　☐障がい者雇用　☐起業
☐NPO 設立　☐多文化共生
☑地域資源活用　☑防災
☐その他

講演実績

「私の使命」

主婦パートが自治会の事務局を一手に…

住民同士が自治組織を形成し、地域の福祉・防災・環境整備等に取り組む“自治会”。近年では相互共助意識が希薄になり、自治会が解散したというニュースも。
「三重県四日市市の自治会加入率は約 85%。これは全国的にも高い割合です」。そう解説する大瀧さんは、四日市市自治会連合会（以下、四自連）の事務を担って 14 年。四自連とは、市内 725 の自治会をまとめる連合組織。市内を 28 の地域に分け、それぞれに連合自治会長が置かれています。大瀧さんの役割は、行政と 28 の連合自治会を結ぶ運営事務。
「元々はブランク 10 年の子育て主婦でした。パートの事務職に応募したつもりだったのに、いきなり事務局を一手に任され、戸惑いもありました」。

地域の備蓄倉庫に女性用生理用品は？

四自連が独立組織となった 2005 年までは、市職員が事務職を代行していました。その頃ちょうど採用されたのが大瀧さん。「何も分からない私を、28 人の連合自治会長さんは、よく助けて下さいました」。
ある日、大瀧さんに一つの疑問が浮かびました。“市内の自治会防災倉庫に、生理用品や化粧水の備蓄は？”。自治会長にたずねてみると、早速生理用品が備蓄されることになりました。
「東日本大震災以降、弱者への防災対策が見落とされがちと、各地で議論されています」。大瀧さんは、女性／乳幼児／高齢者／障がい者など、多様な人々の視点に立ち、きめ細やかな防災対策を四日市市でも進めていくよう、率先して啓発しています。

私流リーダーシップ

女性の視点を入れた『避難所運営の手引き』完成

28 人の連合自治会長は、全員男性。「中には私の父親に近い年代の方も。皆さん地域のためにと立ち上がった優しい方ばかり」。女性や子ども、高齢者や障がい者などの社会的弱者を災害時にどう保護するかは、各自治会長の強い関心事でした。
そこで大瀧さんの声から四自連で出したアイデアは、女性の視点を取り入れた避難所運営手引きの制作。四自連と、四日市市地区防災組織連絡協議会が一体となり、四日市市危機管理室に企画・提案。大瀧さんは、資料整理や連絡窓口を務めました。
こうして手引きは 2015 年度に完成、市の HP でも公開中です。先の熊本地震や西日本豪雨災害の際には、現地の避難所運営に役立てられたほどの充実ぶりです。

地域にもっと女性防災グループを

四自連が 2018 年度に取り組んでいる課題は、案内プレート。「避難所運営では迅速な“スペースの割り振り”と“通路の確保”が重要と知りました」。更衣室や授乳室などの用途ごとに、誰にでも分かりやすく、災害時すぐに活用できる案内プレートを大瀧さんは検討中です。
さらに四自連では“女性防災グループ”の結成にも力を注ぎます。2017 年度は段ボールベッドを女性だけで組み立てる体験会を開催。大瀧さんは地域の女性に問いかけます。「避難所に離乳食や鏡があるかご存知ですか？ 知ればきっと防災活動に参画したくなるはず」。女性防災グループがあるのは、現在 5 地区。「市内全地区に女性防災グループが生まれることが、私の目標です」。

（取材時：2018 年 8 月）

こんな講演・相談に対応できます

- **非常用持出袋の中身について**
- **「避難所運営の手引き」の内容紹介・制作秘話**
- **避難所づくりの要点**
- **四日市市の防災活動事例**

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB は ここから

初の生え抜き女性専務。地道な努力と笑顔で会社を変革！

14 垣本　美和 さん　Miwa Kakimoto

企　東紀州

日本土木工業 株式会社（南牟婁郡 御浜町）
専務取締役

事業所
住所：三重県南牟婁郡御浜町大字引作 141-52
社員数：22 名

業種
総合建設業

みえの輝く女子プロジェクト

Profile

- **離婚後に 32 歳で再就職先探し**
- **建設業の事務員として採用**
- **会社初の女性取締役に就任**
- **女性技術者採用・職域拡大に意欲**

講演・相談可能分野

☐仕事と家庭の両立　☑育ボス
☐人材育成　☐障がい者雇用　☐起業
☐NPO 設立　☐多文化共生
☐地域資源活用　☐防災
☑その他（キャリアアップ・キャリアデザイン
建設業の働き方改革）

講演実績

- 2018 年「社員に愛される会社とは〜性別に関係なく、誰もが活躍できる会社に〜」（三重県中小企業家同友会中勢支部）
- 2018 年「若手後継者等育成事業（女性部）研修会」（東紀州ブロック商工会女性部）

「私の使命」

学歴・資格・経験なし。ゼロからのスタート

「約 20 年前に入社した時は 32 歳でした。経理職は未経験、パソコンはまるでダメ」。今や専務に昇進した垣本さんは、こう振り返り目を細めます。「任された→できない→けどやらなきゃ。その連続でした」。
その頃、会社は成長期。社員たちは現場作業に追われ、経費も利益も、誰も把握できていなかったとか。そこに採用されたのが垣本さんでした。夫に背中を押され、建設経理、施工管理などさまざまな資格を取得。「役員就任以降、制服の購入方法から就業規則まで思ったことを次々と提案させてもらいました」と微笑みます。「社員同士で『こうなったらいいよね』『こうしてほしいよね』と話していたことを、一つずつ叶えていったんです」。

女性技術者・現場監督も活躍できる職場！

同社は、2008 年度に三重県『男女がいきいきと働いている企業』の認証を取得。2014 年度には最高賞『ベストプラクティス賞』にも輝きました。厚生労働省『均等・両立推進企業表彰』では、2011 年度『均等推進企業部門 三重労働局長優良賞』を受賞。それらは建設業の女性採用と職域拡大などが評価されたものです。
「2006 年に『現場監督になりたい』という女性が面接に現れたんです。当時部長だった私は、彼女の採用の後押しができたことをとても嬉しく思いました」。環境整備、セクハラ対策など取り組むべき点は多数ありましたが、「社長に『改善すれば“加点”です！ 受注優位になれますよ！』と日々アピールしていました」。

私流リーダーシップ

女性社員も「スキルアップ」。資格取得率 100%

女性監督が男性作業員を率いるのは、一朝一夕にできるものではなかったといいます。「それでも社長が根気強く、現場作業員に働きかけてくれました」。しばしば現場に足を運び、理解を求めたといいます。
一方、女性社員にも奮起を促しました。「女性も資格を取得しよう。資格を取れば手当 UP だよ！」と。挑戦の励みになるよう、今まで手当がつかなかった資格にも技術手当を支給する社内制度を、垣本さんは整備しました。制度整備の際に心がけているのは、“会社にとっても社員にとっても嬉しい”制度にすること。「勿体ないと思いませんか？ せっかく会社が新制度を導入しても、誰も喜ばなかったら」。垣本さんは社内を見渡し社員の様子を見守ります。

「同じ苦労を、誰にもさせたくない」

垣本さんは「社員一人ひとりの心に余裕がある会社」を目指しています。「みんな、根はいい人なんです。でも優しくなれない時がある。心がささくれ立つのは『なぜ自分だけが』という目に遭っている時。誰かに負担が偏らないよう、注意して見守っています」。
発言の裏には自身の経験が深く結びついているようです。専務になった今でも役員室は使わずに、経理部で机を並べて仕事をし、社員たちを見守ります。朝一番の仕事は、熱中症対策用の清涼飲料水を用意すること。退勤前には“清涼飲料水の氷”を準備して帰宅します。「だって薄まると美味しくないでしょう？」その姿は専務というより、“会社の母”のようでした。

（取材時：2018 年 8 月）

こんな講演・相談に対応できます

- **自身のキャリアアップ体験**
- **社員が喜ぶ働き方改革のルール**
- **セクハラ改善の取組み事例紹介**
- **建設業の女性活躍事例紹介**

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB は ここから

NHK キャスターから転身！“自分で売り込む”伝統工芸職人へ

15 梶浦　明日香さん　Asuka Kajiura

起　北勢

『常若』【三重県で活躍する若手職人のグループ】（四日市市）リーダー

業種
伝統工芸職人

事業所
住所：三重県四日市市
URL：http://asukanetsuke.wixsite.com/netsuke
メンバー：６名

Profile

- **TV キャスターから伝統工芸職人へ**
- **作品は国内・海外で数々の賞に輝く**
- **職人同士で『常若』『凜九』を結成**
- **日本文化や伝統工芸の魅力を発信中**

講演・相談可能分野

☐仕事と家庭の両立　☐育ボス
☐人材育成　☐障がい者雇用　☐起業
☐NPO 設立　☐多文化共生
☑地域資源活用　☐防災
☑その他（伝統工芸の振興・活性化）

講演実績

・2018 年 三重大学「TEDxMieU 2018」ゲストスピーカー（TEDxMieU 実行委員会）

「私の使命」

日本の“三重の”伝統工芸を未来に繋ぎたい

梶浦さんが三重県の伝統工芸品·伊勢根付に心奪われたのは、NHK のキャスター時代。東海地方各地の伝統工芸を番組でリポートしていた時でした。「伊勢根付の彫りの美しさと、モチーフに込めた粋な遊び心を知りました」。
どの取材先でも後継者不足に悩む声を聞き、梶浦さんも次第に伝統工芸存続の危機感を募らせたといいます。思案の末、伝統工芸職人に転身。国際根付彫刻会前会長の中川忠峰氏に弟子入りし、約９年が経ちました。2018 年にはロンドンで開催された日本発のアート公募展『DISCOVER THE ONE JAPANESE ART IN LONDON』に根付作品を出品。約 200 点もの作品の中から、見事大賞に輝きました。

リポーター時代の“伝える技術”を活かす

「前職のおかげで視野が広がりました。“伝統工芸の未来のため、今の私に何ができるだろう？”と考えた末、やはり私にできるのは“伝える”ことだと思いました」。
弟子入り 2 年目の 2012 年には、浴衣の着こなしや所作の美しさを競う『ゆかたキレイコンテスト』に出場。梶浦さんの目的は、浴衣に根付を合わせる提案でした。この提案が大いに受け、梶浦さんはグランプリを受賞。以降、国内外の着物ショーに招待され、各地で根付の魅力を PR しました。取組は各種 SNS でも発信し、情報の拡散を狙います。
「師匠が今も元気に現場を守って下さるので、私は色んなチャレンジができます。前例のない事にも挑戦して、“今できること”に邁進中です」。

私流リーダーシップ

職人を町へお届け。若手達で出張教室

2012 年には、県内の若手職人６人で『常若』を結成。「当時の主な活動は“集まっておしゃべり”でした。職人は孤独です。特に若手には横の繋がりがありません。けれど私は取材を通じて、どこに若手職人がいるか知っていたんです」。
結成においては梶浦さんが声を掛けて回りました。『常若』は高齢化が進む伝統工芸界に現れた新星として、注目を浴びることに。「SNS を通じてワークショップの依頼が来ることもありました。『職人さんって、思った以上に気さくなんですね』なんてお声をいただくことも」。“出前 OK ！”の身近な職人として、メンバーは県内企業や学校などを訪れ、伝統工芸の魅力を伝えるワークショップを開催しています。

夢を語り合い、念願の海外進出も！

伊勢根付／伊勢型紙／伊勢一刀彫り／漆芸の各分野の職人達が集まる『常若』。多忙なメンバーですが、心通わせる時間を大切にしています。「交流には SNS を活用しています。次の企画についてなど、楽しい夢の話をして盛り上がっていますよ」。
2017 年には、６年越しの夢が叶いました。それは伝統工芸を海外の人に伝える活動。マレーシア、香港、ベトナムでワークショップを実施し、「自分達の技術や作品が海外でも受け入れられると肌で感じました」。2017 年、梶浦さんは東海地方の若手“女子”職人 9 人で『凜九』も結成。ここでも新しい風を呼び起こそうと奮闘します。「動かなきゃ！」。職人と仕掛人の２役で、伝統工芸を未来に繋げます。

（取材時：2018 年８月）

こんな講演・相談に対応できます

- **『常若』『凜九』の取組紹介**
- **三重県・愛知県の伝統工芸**
- **若手職人による工芸ワークショップ**
- **小さな団体の広報戦略**

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB は ここから

経営の拡大戦略を応用し“ヘルプマーク普及”に余命を懸ける。

16 小﨑　麻莉絵 さん　Marie Kozaki

起　北勢

特定非営利活動法人 いのち繋ぐプロジェクト
（愛知県名古屋市）理事

業種
ヘルプマークの広報啓発

事業所
住所：愛知県名古屋市中区金山 5-5-20
URL：http://inochitsunagu.org
社員数：10 名

Profile

- **2014 年に余命 5 年の宣告を受ける**
- **療養中『ヘルプマーク』を知り広報に尽力**
- **起業家としての経験を生かし活動を拡大**
- **2018 年「三重県ヘルプマーク・アンバサダー」就任**

講演・相談可能分野

□仕事と家庭の両立　□育ボス
□人材育成　□障がい者雇用　□起業
□NPO 設立　□多文化共生
□地域資源活用　□防災
□その他（マイノリティの活動支援）

講演実績

- 2018年「ヘルプマークを知っていますか？～優しさで繋ぐ、健常者と当事者～」(全日本空輸株式会社中部支社)
- 2018 年　「ヘルプマークを知っていますか？～優しさで繋ぐ、健常者と当事者～」（三井住友信託銀行名古屋営業所）
- 2018 年　「命と時間のお話」（愛知サマーセミナー実行委員会）

「私の使命」

余命宣告を受けて知った『ヘルプマーク』

「電車で座っていると、病気で辛くても『若いくせに』と叱られる。もう『私は病人です』って体に刻んでしまいたい！」。2014 年に血液の病気 MDS（骨髄異形成症候群）を発病した小﨑さんは、こんな発言を機に、知人の紹介で『ヘルプマーク』と出会いました。
ヘルプマークとは、援助や理解を周囲に求める“しるし”。外見では分からない病気や障害があることを示しています。ヘルプマークは 2012 年に東京都から始まり、現在は全国共通の JIS マークに。小﨑さんはマークを付けて以来、たくさんの優しさを感じたといいます。そこで「ヘルプマークをもっと広く知ってもらいたい」と活動を開始。2018 年には「三重県ヘルプマーク・アンバサダー」に就任しました。

発病前から一貫して“1 人でもやる”

『余命 5 年』の宣告を受けたという小﨑さん。当時の職業は会社経営。創業 2 年目で、WEB 制作の仕事獲得に燃えていたといいます。「動機は自分に“自立”が必要と思ったから。
起業にあたり、尊敬する経営者さんの下で経営学･哲学･人間関係論など、たくさんのことを学びました」。ヘルプマークの普及活動に取り組む今も「“自立”の心は変わりません」。
啓発イベントへは、1 人でも行く気構え。「実際 1 人でやった事もありますよ」。体調によっては、1km 歩くこともままならない日も。「病気・障害を持つ人など、色んな人が私のヘルプマーク活動を楽しみに待ってくれているので。私の基本は“個人活動”です」。

私流リーダーシップ

「私は無力」人の力を引き出す戦略

小﨑さんが理事を務める『ＮＰＯ法人いのち繋ぐプロジェクト』。代表理事はあえて不在にし、理事は少人数。小さな団体ですが、2017 年に名古屋市で署名活動をした際には、1 万 1,103 名もの署名を達成。2018 年には地元の三重県で、ヘルプマークアンバサダーに就任。クラウドファウンディングで寄附金を募ったところ、目標額を上回る 51 万 5,000 円も寄せられました。
啓発イベントを開催すると、イベント協力者、参加者ともに大盛況！ 小﨑さんは、人を動かす特別な力があるようです。「実は私、リーダーですが何もできないリーダーなんです。1 万人の署名を集めた際も、自分でお願いしたのはわずか 4 人の方でした」。

小さな協力を糸口に、大きな輪を作る

ヘルプマークの普及活動には、小﨑さんが起業の際に習得したテクニックを用いているといいます。それは、①できない自分を明確にする、②相談してアドバイスを求める、③小さな協力を引き出す、④協力の輪を広げる。
「私は、できない。それを明確に打ち出すと、その穴を埋めてくれる人がきっと現れてくれると信じています。ヘルプマークユーザーも、健康に日常生活を送る方も、企業も行政も。みんな大きな可能性を持っているように見えます」。
アイデアや人との繋がりを総動員し、社会的少数者になった経験さえも踏み台にして、ボーダーレスに活動中。自身の武器をすべて用いて、ヘルプマークユーザーへの理解と協力拡大のため命を燃やします。

（取材時：2018 年 8 月）

※小﨑さんは、2019 年 3 月で本 NPO 法人の活動を終えられています。

こんな講演・相談に対応できます

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB は ここから

三重大学の１万人が省エネの主役！仕掛人は２児の母

17 中川　朝子 さん　Asako Nakagawa

企　中南勢

国立大学法人三重大学（津市）
施設部施設管理チーム 係長

事業所
住所：三重県津市栗真町屋町 1577
URL：http://www.mie-u.ac.jp
教職員数：1,824 名

業種
教育・研究

Profile

- 文学部を卒業後、建築専門学校へ入学
- 設備設計一級建築士を活かし転職
- 『三重大学省エネ積立金制度』を発案
- 大学全体で６年で 6%の節電を目指す

講演・相談可能分野

☑仕事と家庭の両立　☑育ボス
☐人材育成　☐障がい者雇用　☐起業
☐NPO 設立　☐多文化共生
☐地域資源活用　☐防災
☑その他（省エネルギー・ESCO 事業）

講演実績

「私の使命」

設備設計の資格を武器に三重大学を守る

「東京の設計事務所で、資格取得が求められたので」と大型建築物の電気設備設計に必要な資格を取得した中川さん。それらの資格を活かし、2012 年に三重大学に転職しました。
転職して最初に手がけたのは附属病院の『ハーモニーハウス』。小児患者の家族が滞在できる宿泊施設の設計監理を担当しました。日々の主な業務は、大学構内の設備保全。「男性の仕事というイメージがあるかもしれませんが、設備の不具合などの連絡を受けると、安全靴やヘルメットを装着し、大学構内のあちこちへ」。ある日は高所作業車に乗り、電気工事に立ち会うことも。“電気を使える毎日”は、中川さんのような技術者が支えていました。

省エネ改修費を捻出する仕組を発案

電気設備の設計技術者だった中川さんですが、2016 年度には“制度のデザイン”にも携わることになりました。三重大学は 2016 年度に、「今後 6 年間でエネルギー消費量を 6% 以上削減することを目標に定める」と発表。
「節電を呼びかけるだけでは達成困難な数字です。老朽化した設備を省エネ設備に更新する必要がありましたが、その予算がありません」。そこで中川さんは、新しい仕組『三重大学省エネ積立金制度』を提案。各部局から光熱費使用料金の 5% を設備改修費として徴収しようと考えました。中川さんの企画は学内で正式採用され、動き始めましたが、すぐに困難が立ちはだかりました。

私流リーダーシップ

リケジョ流解決法、既存の制度を徹底研究

中川さんらは、学長・学部長・研究科長・病院長らに説明して回りましたが「もう、それは厳しい反応で」と当時を振り返ります。反発の理由は、省エネ以外でも修繕が必要な設備が多くあること。研究を推し進めるにはエネルギーが不可欠で、節電は難しいこと。「時には『研究をやめさせる気か？』と詰め寄られ、“ヒー”と逃げ帰ることも」。
そこで中川さんは、リケジョ目線で制度を見直すことに。あらゆる資料を読み深めると、環境省など他省庁の補助金制度を活用できそうなことが判明しました。これにより各部局から徴収した積立金に、外部資金を上乗せして再配分する仕組が誕生。合意困難と思われた 2016 年度中に、企画は合意に達しました。

ESCO 新事業の幕開け。環境先進大学に前進

今回“省エネ 6%”に苦戦した理由に、三重大学がすでに省エネ先進大学だったことが挙げられます。大学は 2011 年度に『スマートキャンパス事業』をスタート。構内で風力・太陽光発電などが始動しました。並行してスマホで貯める節電ポイント制度も始まり、学生も楽しく節電に参加します。
2017 度には、三重県初『地域環境保全功労者表彰』環境大臣賞も受賞。『三重大学省エネ積立金制度』では、『スマートキャンパス事業』に次いで、学内 2 号目の『ESCO（Energy Service Company）事業』が実施されます。中川さんらが作った新制度を利用し、学生・教職員約 1 万人が“世界に誇れる環境先進大学”を創造します。

（取材時：2018 年 8 月）

こんな講演・相談に対応できます

- ■『三重大学省エネ積立金制度』紹介
- ■省エネ・ESCO 事業の大学導入事例
- ■産休・育休中の資格取得ポイント
- ■子育て世代に優しい社内環境作り

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB は ここから

孤食の子に団らんを、働く１人親に情報交流の場を！

18 山田　知美さん　Tomomi Yamada

起　北勢

特定非営利活動法人 三重はぐくみサポート(四日市市) 理事長
55 カフェ（四日市市）代表

事業所
特定非営利活動法人 三重はぐくみサポート
住所：三重県四日市市大矢知町930−1 ツインコート大矢知 205
URL：http://kodomo55.jp　社員数：10 名
55 カフェ
住所：三重県四日市市富州原町 2-40
　イオンモール四日市北レンガ棟前　社員数：14 名

業種
子ども食堂の運営・子どもの貧困支援・女性活躍推進
飲食店経営

みえの輝く女子プロジェクト

Profile

- **主婦から起業し『55 カフェ』を開業**
- **離婚を機に我が子との夕食が困難に**
- **2016 年から“子ども食堂”を開始**
- **“孤食”と“孤育て”の両問題に立ち向かう**

講演・相談可能分野

☑仕事と家庭の両立　☐育ボス
☑人材育成　☐障がい者雇用　☑起業
☑NPO 設立　☐多文化共生
☐地域資源活用　☐防災
☑その他（子どもの貧困問題）

講演実績

- 2016 年 子育て世代のための創業セミナー「主婦からの起業」（松阪市商工会議所）
- 2016 年 女性の創業セミナー「創業体験談」（四日市市商工会議所）
- 2018 年「子どもの貧困を考えるシンポジウム～支援者の集い～」パネリスト（三重県）

「私の使命」

経営するカフェで栄養満点の夕食を

地域の子育て支援策として、全国的に広がりを見せる“子ども食堂”。山田さんは自らが経営する『55 カフェ』で、2016 年より『四日市子ども食堂 55』を始めました。
開催日は毎月第 2 水曜の夕方、参加費は子ども無料、大人は 500 円の材料費(予約制)。メニューはプロのカフェが手がける、栄養満点の定食です。2018年9月で開催は26回になりました。「カフェでの開催、それもショッピングモールの一角にあるので『安心して利用できる』との声をいただいています」。当初は全額山田さんの自己負担で運営していましたが、現在は数々の支援が寄せられるように。カフェのレジ横に設置した募金箱には、毎月 2 万円近い募金が集まるといいます。

「私も困窮をひた隠しにした」経験者

子ども食堂を始めた背景には、山田さん自身が以前、我が子にひっそりと“孤食”させていた事情がありました。「カフェ経営が苦しかった時に離婚しました。経済的にも、精神的にも、肉体的にも厳しかったです。でも我が家の困窮ぶりは、絶対に誰にも知られたくなかった」。
現代では子どもの貧困が表面化しないことを、山田さんは身をもって理解します。「孤独でした。働く 1 人親は、親子共々地域行事に参加できず、情報が得られません。それでますます孤立します」。
山田さんの子ども食堂では、親同士の情報交換や、子どもの野外体験なども応援しています。2017 年からは、夏に河原でバーベキューする体験を、子ども達にプレゼントしています。

私流リーダーシップ

個人情報の壁。要支援者と繋がる難しさ

「現代の子は 7 人に 1 人が貧困と言われています。特に母子世帯の貧困率は 66% というデータも。しかし子どもを見ても貧困は分かりません。綺麗な服を着て外出し、帰宅後は家にこもっているのです」。一時は子ども食堂開催の、大々的な告知を試みてみたものの、結果は芳しくなかったと山田さんは分析します。
「届けたい人に届かず、もどかしいのが率直な感想です。また、行政との連携は、個人情報の壁に阻まれ難しい」。そこで山田さんは、もっと気軽に参加できる『おやこ食堂 55（予約不要)』を毎月第 4 水曜日に開くことに。さらに 1 人親を対象にした料理教室も開催。「参加者のうち 1 人でも要支援者に辿り着けたらいいなと思います」。

“小さな輪”と“単独開催”で継続を目指す

山田さんの『四日市子ども食堂 55』は“小さな輪”と“単独での運営”を大切にしています。「カフェの空き時間を見計らい、スタッフと一緒に子ども食堂の支度をしています。効率最優先で、この形になりました」。そんな山田さんの方針に理解を寄せる地域の人々が、食堂開催日になると集まります。
例えば子育てを終えたプラチナ世代や、山田さんと同じ子育て世代の協力者たちが、子守役としてサポートを買って出ます。また近隣の食品製造業者などが、当日必要な食材を差し入れてくれます。「各々無理をしない範囲で、と呼びかけています。長く続けたいから」。第 1 回目の時と同様に、何の支援が無くても開催し続けたいと意気込みます。

（取材時：2018 年 8 月）

こんな講演・相談に対応できます

- **■現代特有の“子どもの貧困”解説**
- **■働く 1 人親の子ども孤食事情**
- **■子ども食堂の運営について**
- **■飲食店向けの新メニュー開発**

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB は ここから

相談員 20 年“地域になじむ”を外国人へ働きかける

19 山田　ロサリオさん Rosario Yamada

起　中南勢

特定非営利活動法人日本ボリビア人協会（津市）理事長

事業所
住所：三重県津市大門 7-15 津センターパレス 3 階
URL：http://arbj.strikingly.com
社員数：6 名

業種
国際交流・多文化共生

みえの輝く女子プロジェクト

Profile

- **日本人商社マンの夫とボリビアで結婚し、出産**
- **家族で日本へ移住。日本語を習得**
- **在日ボリビア人の互助グループを発足**
- **日本語通信教育（スペイン語）を開始**

講演・相談可能分野

☐仕事と家庭の両立　☐育ボス
☐人材育成　☐障がい者雇用　☐起業
☐NPO 設立　☑多文化共生
☐地域資源活用　☐防災
☐その他

講演実績

- 2013 年「地域日本語教育と住民の社会参加」（文化庁日本語教育大会）
- 2016 年　「多文化共生って何？」（東海「市民サミット」ネットワーク事務局）
- 2017 年　「多文化共生施策の推進」（全国市町村国際文化研修所 JIAM）

「私の使命」

「なじめない」在日外国人の困難に対処

『NPO 法人日本ボリビア人協会（ARBJ）』は、在日ボリビア人の互助会。理事長の山田さんが、他に仕事を持ちながら、彼らの相談・支援活動をしています。
「日本になじめず、私も最初は毎日泣いていました。日本で働く外国人は、みんな孤独です」。山田さんは来日後、まず奈良県で日本語を習得し、最寄りの教会で外国人（スペイン語圏）の生活相談・通訳・翻訳ボランティアを開始。
1995 年の阪神大震災では、「給料の未払い、病気やケガなど、色んな相談を受けました」。2008 年のリーマンショックでは、多くの在関西ボリビア人が失業。彼らが職を求め東海地方に転居したことに伴い、山田さんも活動の地を三重県へと移しました。

困りごとを反映。使える日本語通信講座

山田さんが来日して一番嬉しかったのは、「日本語が伝わった時」と振り返ります。「ご近所にボリビア料理を振る舞い、喜ばれました」。
そんな経験から、日本語学習の大切さを在日ボリビア人に説きます。しかし、仕事や育児で学校に通えない彼らの事情も理解します。そこで団体を NPO 法人化した 2012 年に、『家で学べる日本語通信講座（スペイン語版）』を実施（文化庁委託事業）。
通信教育事業の大手『ラーンズ』（ベネッセ関連会社）と共同でテキストを制作しました。病院編・市役所編など、日常の“困った”状況別に冊子を分類。「私が特に力を注いだのがコラムです」。相談の多い“面接時のマナー”など、すぐに実践できる情報も盛り込みました。

私流リーダーシップ

編み物教室で、孤独を解消＆自立も支援

近年、山田さんは在日ボリビア人労働者と、その家族の高齢化問題にも関心を寄せています。「特に高齢女性は働き口がありません。今から日本語を習得するのも年齢的に難しい」。
そこで目を付けたのが、南米の女性が身につけている技能。「私達はみんな、小学生の頃から編み物を習いました。だから編み物ができるんです」。2017 年には、三重県産業支援センターの助成金を受け、津市内で編み物教室を開始。ボリビアの名産品であるアルパカの毛糸をフェアトレードで購入し、その毛糸で作品を制作します。同時に、孤立した彼女達の“サロン”としての役割も果たします。「商品を販売して、彼女達が自立できることを目指しています」。

楽しく相互理解！文化交流イベントも開催中

在日ボリビア人への生活相談／日本語学習支援／編み物教室と、彼らが日本で自立するための道を山田さんは切り拓きます。あわせて日本人にも理解を呼びかけます。
人々を仲間に巻き込む、楽しい仕掛けがありました。「『EXPO ボリビア』という文化交流イベントを開いています。運営スタッフの中には、私が来日したばかりの頃に日本語を教えてくれた、夜間中学の先生もいますよ」。
またアルパカ毛の編み物が、日本人の好みにフィットするよう『東京ニットファッションアカデミー』のデザイン協力も仰ぎました。
「目標は、色々なボランティア活動をしてきた私の母です」。人の縁とアイデアを駆使し、日本人とボリビア人の地域共生を図ります。

（取材時：2018 年 8 月）

こんな講演・相談に対応できます

- **■外国人労働者の困りごと事例**
- **■外国人への日本文化・マナーの講座**
- **■“書く”日本語通信講座（スペイン語版）**
- **■多文化共生のヒント・アイデア**

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB はここから

ホテル勤務を生かせる場が、未経験の観光農園にあった！

20 山原　裕美 さん　Yumi Yamahara

起　北勢

Sakura Berry's Garden さくらベリーズガーデン（四日市市）園長

業種
観光農園

事業所
住所：三重県四日市市桜町 7818
URL：https://www.sakura-berrys.com
社員数：2 名、ボランティアスタッフ 5 名

Profile

- **ホテル勤務を経て、2 児の母に**
- **育児中は事務職に転身、新人指導を担当**
- **2013 年、農園立ち上げから携わり、園長へ**
- **2018 年、リピーター約 7 割の人気農園に**

講演・相談可能分野

☑仕事と家庭の両立　☐育ボス
☑人材育成　☐障がい者雇用　☐起業
☐NPO 設立　☐多文化共生
☐地域資源活用　☐防災
☑その他（キャリアアップ・キャリアデザイン　マナー講師）

講演実績

- 2005 年「女性社員を対象にした『電話対応（基本編・応用編）』」（三重県内企業）
- 2017 年「My スタイル起業 伝わる発表会」（東海 3 県女性起業家等支援ネットワーク）

「私の使命」

女性の靴＆ベビーカーでも快適な農園に

毎年 6〜8 月まで営業する観光ブルーベリー農園。ベビーカーも車椅子も通れる広い通路が整備され、防草シートが敷かれた平坦な地面は、女性のおしゃれ靴を汚すことはありません。
「『観光農園を始めたいから力を貸して欲しい』と生産農家だった現夫に声を掛けてもらった時は、嬉しくて」。それまでは会社員として事務職に従事。「サービス業への思いは、いつもありました。けれどシングルマザーだったので、土日に働くのが難しくて」。
子育てがひと段落した頃に巡ってきたチャンス。農業も観光農園も初めてでしたが「生産以外の運営管理を一任してほしい」と申し入れました。園内には山原さんのアイデアと心遣いがちりばめられています。

ホテル時代の接客術で、リピーターが 7 割！

開園当初から力を入れたのが、SNS の情報発信。「とにかく出来る事を精一杯に。結果が見えてきたのは 3 年目ごろ」と振り返ります。多くの来場者は 40 代〜60 代のオトナ女性。一度訪れた際に「美味しかった」「色んなブルーベリー品種（96 品種 1,000 本）を食べ比べできた」などと喜び帰り、翌年には家族や友人などを誘って再び訪れるとか。
「美味しさは一番の自信です。加えてホテル時代に培ったサービス業の経験も活きているかも」。一人ひとり顔を合わせての声がけを忘れず、予約者台帳にはその会話内容を毎日記す。「この農園が "心安い居場所" になって欲しいから」。その結果、2018 年夏の営業では前年来園者の約 7 割が再訪したそうです。

私流リーダーシップ

農園に頼れる助っ人！『ベリーズおじさん隊』

観光農園の営業期間中は、夫の友人 4 名がボランティアスタッフとして参加。「『ベリーズおじさん隊』とみんなで名付けました」。職業は営業、設計、製造、会社経営とさまざま。それぞれに本業があるので、農園の手伝いは好意の参加です。従業員として雇用する時とは違う、人と人の向き合い方があると山原さんは言います。「やはり楽しく参加していただく。ここでも "心安さ" を大切にしています」。
特に大切なのがボランティアそれぞれの「個性を見極め、個々に合う作業に関わっていただくこと」。仕事内容は接客から園の整備までさまざま。開園から 5 年経っても変わらない仲で「先日はお揃いの T シャツを作りました！ 体育祭のような楽しい雰囲気です」。

職場改善は "世話好きおばさん" 流

来園客とも、ボランティア参加者とも、一人一人の顔を見て関わるという山原さん。その心がけの基になっているのが、事務員時代の経験です。「毎年入社してくる新人の精神的フォロー役と、電話対応・接客の教育係を担っていました」。
電気工事業の会社で、数少ない女性社員の一人として、潤滑油としての役割を期待されていたそう。「例えば 5 人が入社すると、5 人とも違う思いや悩みを抱えています。表に出るのは不機嫌や無気力な態度。"世話好きおばさん" として（笑）、心の声を聞き出し、配置転換など可能な範囲で改善をしていました」。
今も変わらぬ目配り気配り、そしてスピーディーな改善対応で、楽しい農園を開拓し続けています。

（取材時：2018 年 8 月）

こんな講演・相談に対応できます

- **「観光業＋農業」異業種の共有**
- **女性視点を取り入れた農園整備**
- **農業・観光農園の SNS 活用術**
- **新人・女性のためのビジネスマナー**

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB は ここから

来客予測 AI” の開発者は、パソコン初心者の接客担当

21 秋吉　しのぶ さん　Shinobu Akiyoshi

企　伊勢志摩

有限会社 ゑびや（伊勢市） 接客担当
株式会社 EBLAB（伊勢市）データサイエンティスト見習い

業種
飲食、小売、卸売
システム開発

みえの輝く女子プロジェクト

事業所
有限会社 ゑびや
三重県伊勢市宇治今在家町 13
URL：www.ise-ebiya.com　社員数：55 名
株式会社 EBILAB
三重県伊勢市宇治今在家町 13
https://ebilab.jp　社員数：7 名

Profile

- **学生時代からサービス精神旺盛**
- **英語・中国語・韓国語をマスター**
- **『ゑびや』で AI 技術を知る**
- **未経験からシステム開発に参加**

講演・相談可能分野

☐仕事と家庭の両立　☐育ボス
☑人材育成　☐障がい者雇用　☐起業
☐NPO 設立　☐多文化共生
☐地域資源活用　☐防災
☑その他（AI・システム活用）

講演実績

「私の使命」

飲食店の悩み。“翌日の来客数” を当てる挑戦

2017 年に伊勢神宮の内宮へ参拝した人は、およそ 580 万人。内宮の門前町で食堂を営む『ゑびや』には、毎日多くの客が食事にやって来ます。店の長年の悩みは、“明日はどれだけの人が来るか”。創業から約100年間、職人の勘だけが頼りでした。
しかし2018年、店はAI技術を用い問題解決に成功。食堂のフロア係だった秋吉さんは、接客と並行してシステムづくりに参加しました。
「実は私はパソコンオンチ。半年前までパソコンを持っていなかったほどで！」。開発を振り返り、明るく笑う秋吉さんが完成させたのは “来客予測 AI”。翌日の来客者総数と、どのメニューがいくつ注文されるかを、90%を超える確率で的中可能だといいます。

伊勢～北海道～沖縄を結びボーダレスに開発

『ゑびや』は 2016 年から、来客数や天気などのデータを蓄積。来客予測システムの開発に着手していました。秋吉さんは 2018 年に、Microsoft のセミナーへ参加。「そこで初めて機械学習を知りました」。
機械学習とは、いま話題の “AI（人工知能）” に繋がる技術。「私にとっては、初めてのことだらけ。ですが教材を参考に数式を入力すると、すぐに結果が表示され『私にもできた！』という喜びを味わえました」。
それから秋吉さんは、仕事の合間を縫ってパソコン漬けに。「IT 顧問やエンジニアとの会議にも参加するようになりました。北海道から沖縄まで、さまざまな技術者とビデオ会議をしながら技術を向上させています」。

私流リーダーシップ

現場を盛り上げ、“楽しく操作に慣れる”

秋吉さんは、自身の持ち味を「サービス精神旺盛なところ」だといいます。学生時代に英語・中国語・韓国語を学び、海外でのボランティア活動にも参加。そのサービス精神は、『ゑびや』の来店客だけでなく、社内に対しても発揮されているようです。
「来客予測システムと、職人さんの勘で導き出した数字に、隔たりが出ることもあります。立派な職人さんほど “勘” に誇りを持っていらっしゃいますし、その気持ちはよく分かります」。
秋吉さんは彼らの声によく耳を傾け、システム開発者として “楽しく明るく” 理解を呼びかけたといいます。「操作が怖い」という熟練社員の心情にも寄り添いました。「何より私自身がパソコン初心者ですから！」。

接客担当、AI 技術者、そして新たな挑戦も

秋吉さんが開発に参加したシステムは、『タッチ･ポイント･BI（ビーアイ）』という商品名で、2018 年 11 月に全国発売されました。スマホ･タブレットにインストールすれば、SNS のように誰でも簡単に操作できるとか。商品化以降、秋吉さんの役割は「開発者」から「データサイエンティスト」になりました。「顧客店舗様の来客データも分析します」。
食品ロスが減ることを願い尽力した『ゑびや』の来店予測を、他店でも高い的中率で運用できるよう調整しています。旅館の女将になるために『ゑびや』で働き始めた秋吉さんですが、「それよりも、今の仕事が楽しくて！」。秋吉さんはエンジニアとしての腕を磨きながら、ソムリエの資格取得にも挑戦中です。

（取材時：2018 年 11 月）

こんな講演・相談に対応できます

- **『タッチ・ポイント・BI』の紹介**
- **来客予測システムの開発秘話と仕組み解説**
- **サービス業の現在・未来**
- **データ収集のための接客術**

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB は ここから

三重の先進農業を、世界中に広めたい！

22 呉　婷婷（ウ・ティンティン）さん Tingting Wu 企 中南勢

株式会社 浅井農園（津市）
研究開発部 研究員

事業所
株式会社 浅井農園
三重県津市高野尾町４９５１番地
http://www.asainursery.com
社員数：61 名

業種
育種及び養液栽培技術等に関する研究開発事業、野菜果実の生産及び流通開発事業、緑化花木の生産及び造園緑化事業

みえの輝く女子プロジェクト

Profile

- **中国から三重大学大学院へ留学**
- **博士号を取得し、浅井農園へ就職**
- **トマトの新品種と新栽培法を研究**
- **世界中の“つらい”農業を変えたい**

講演・相談可能分野

☐仕事と家庭の両立　☐育ボス
☑人材育成　☐障がい者雇用　☐起業
☐NPO 設立　☑多文化共生
☐地域資源活用　☐防災
☐その他

講演実績

- 2017 年 「農業技術の革新～グローバル競争時代の農業で生き抜く為には～」（三重大学）
- 2018 年 「海外施設園芸の発展方向」（中国安徽農業大学）
- 2018 年 「現場力向上研修」（三重県職員研修センター）

「私の使命」

卒業後は中国へ帰るつもりだったが

呉 婷婷（ウ・ティンティン）さんは、中国・四川省の出身。中国からの交換留学生として、2010 年に三重大学大学院へやって来ました。「私の故郷は、四方を山に囲まれた盆地の町です。農地は傾斜地が多く、なかなか機械が入れません。皆が苦労していました」。
地域課題解決のために、中国の農業大学では農業工学を、三重大学大学院ではバイオマス材料研究を専攻し博士号を取得。「卒業後は中国で大学の先生となり、見聞を学生に伝えたいと思っていました」。
呉さんの運命を変えたのは、津市で先進農業に取り組んでいた浅井雄一郎さん（株式会社浅井農園代表取締役）。「講演で浅井社長の話を聴き『この人と一緒に仕事がしたい！』と強く思ったんです」。

私が証明する“養液栽培のトマトは美味しい”

浅井農園は、1907 年から続く花木の生産・卸農家。創業 100 年の 2007 年より、浅井雄一郎社長のもとで全く新しいトマト栽培に着手しました。呉さんは、浅井社長をこう見ています。「在来農業を深く理解し、日本の農業を愛する人。家業 100 年の歴史を土台に、日本の農業を変えたいとチャレンジしています」。
浅井農園のトマト栽培ハウスには、土がありません。トマトの根は、土の代わりに湿ったスポンジ（ロックウール繊維）で覆われていました。「養液栽培です。ロックウール培地に含まれた栄養を吸収し、トマトが美味しい実をつけます。農学博士の私の仕事は、“先進技術で育ったトマトは美味しい”ということを証明することです」。

私流リーダーシップ

外国人と日本人社員の“架け橋”に

呉さんが入社したのは 2014 年。「社員はまだ 8 人で、私が第 1 号の外国人社員でした」。浅井農園はその後事業を成功させ、アメリカからアジア、アフリカまで各国の研修生を受け入れることに。
英語・中国語・日本語が堪能な呉さんは、彼らの社内教育係を買って出ました。「日本語が苦手な人、農業経験がゼロの人、ビザなどの書類記入が苦手な人など、色々な人がやって来ます」。この日はケニアとマリからやって来たインターン生と、英語でコミュニケーションを取っていました。
その一方で、日本人社員に対しては多文化体験を促します。「両者を繋ぐには、私がきっと適任！」と、呉さんは率先してコミュニケーションを取っているといいます。

浅井農園の社員として、いつか海外へ

新品種の研究開発は、農学博士の呉さんがスーパーバイザー（管理者）。ハウスの中には、まだ世の中に出回っていないトマトが沢山植えられていました。ここには世界中のトマトが集まっているのだとか。日々の変化は、張り巡らされたセンサーが感知。パート社員達も現場を歩いて呉さんに報告します。肥料も外国から取り寄せ、分析し、その結果を元に、まだ見ぬ美味しいトマトの作り方を探ります。
呉さんの 10 年後についてたずねてみると、「私はどこの国で働いているでしょう？」と首を傾げます。「もしかすると Asai China, Inc. が設立されて、母国で仕事をしているかも」。浅井社長とともに、この先進農業を世界中に広げようと邁進中です。

（取材時：2018 年 11 月）

こんな講演・相談に対応できます

- **■外国人社員への社内研修**
- **■異文化理解の“架け橋”実践法**
- **■スマート農業の現在と未来**
- **■浅井農園の研究・取組紹介**

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB は ここから

災害に備えて、生きる“根っこ”を育む防災料理教室

23 大須賀　由美子 さん　Yumiko Osuga

起　中南勢

だんだんキッチン（多気郡多気町）代表
防災士

事業所
だんだんキッチン
三重県多気郡多気町波多瀬 1070-5
http://dandan-kitchen.com
社員数：1 名

業種
子ども料理教室の運営
防災講座の開催等

Profile

- **阪神淡路大震災を経験**
- **多気町で子ども料理教室**
- **防災講座を立ち上げる**
- **教室を通じ“生きる力”を養う**

講演・相談可能分野

☐仕事と家庭の両立　☐育ボス
☐人材育成　☐障がい者雇用　☐起業
☐NPO 設立　☐多文化共生
☐地域資源活用　☑防災
☑その他（食育）

講演実績

- 2018 年　パパと子のソナエノゴハン（フレンテみえ）
- 2018 年　ソナエノゴハン（東邦液化ガス 株式会社 三重支店）
- 2018 年　防災食クッキング（伊勢市）

「私の使命」

子どもの根っこ、防災の根っこ。人気の 2 教室

2014 年から子ども料理教室『だんだんキッチン』を開講。2015 年からは防災講座『ソナエノゴハン ®』も始めた大須賀さん。「人は誰しも、何があっても生きなきゃいけない。だから生きる力をつけてもらえたら」と、教室への思いを語ります。
大須賀さんが強い思いに駆られる理由は、1995 年まで遡ります。
「1 月 17 日、職場があった神戸の街が一変しました。阪神淡路大震災でした。あの時感じた恐怖や無力感は、今も感じ続けています。そして今は何より守りたい娘達がいます。どうやったらこの子達を守れるのか、それがスタートでした。誰にとっても大切な人がいます。助かる命が少しでも増えるよう、講座に取り組んでいます」。

家庭の調理器具＋食材で災害を生き延びる

『ソナエノゴハン』には、大須賀さんの切なるメッセージが込められていますが、講座は和やかに進みます。
例えば鍋で炊くご飯。初めての人も気軽に炊けるよう説明・実演します。「鍋はホームセンターにあるもので十分。音だけで沸騰したかの判断なんて、私でも難しいです。ちらっと蓋をとっても大丈夫」。そんな一言に笑いが起きることも。
講座で使うのは身近な食材。「普段の食卓と防災が地続きになった、新しい生活防災スタイルを作りたいんです。それが備えの“根っこを育む”に繋がると思っています」。防災意識を広げる一つの方法として、身近な食を切り口に。『ソナエノゴハン』では、大須賀さんのアイデアによるさまざまな工夫が見てとれました。

私流リーダーシップ

地域性に寄り沿う啓発法を模索

町内の 15 名から始まった『ソナエノゴハン』。やがて他の自治体や県外企業からも講座依頼が来るようになり、2 年間で 24 回に。
「多気町への移住をきっかけに、教室にチャレンジしてみようという気になれたんだと思います」。
夫の転勤に伴い家族で三重県に転居した大須賀さん。朗らかな風土に魅了され、永住を決めました。「皆さんとても温かく、日々は穏やか。災害なんて想像もつかない。でもそれでは命を守れません」。
備える気になるような伝え方を模索し生まれたのが、料理を切り口にした「ソナエノゴハン」です。「習慣化するのって難しい。少しでも浸透するように、そのためには、まずは耳を傾けてもらえるように考えました」

知識を更新しながら“目配り”も大切に

大須賀さんが“教える”原点は、我が子の誕生にあります。
「我が子に生きる術を伝えたいと、料理研究家の坂本廣子先生から食育を学びました。教えていただいた心構えや技術が『だんだんキッチン』に活かされています」。これまでに『だんだんキッチン』で食育体験を伝えた子ども達の数は、のべ 2,000 人。『ソナエノゴハン』の開講を機に、防災士の資格も取得しました。
現在は三重県と三重大学による『みえ防災塾』を受講中。「娘たちが通うダンス教室の先生からも、言葉の選び方、やる気の引き出し方など、学ぶことが沢山あります」。親としての眼差しと、率先者としての知識。2 つの両輪で、人々の背中を優しく押すような料理体験を考え続けます。

（取材時：2018 年 11 月）

こんな講演・相談に対応できます

- **災害時にも使えるポリ袋調理**
- **乾物や缶詰を活用した防災料理**
- **子どもの生きる力を育む料理体験**
- **防災と食育に関する各種講演**

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB は ここから

ママが集う『育休カフェ』を主宰。キャリアを未来へ繋げよう！

24 加藤　果林 さん　Karin Kato

企　北勢

ミサワリフォーム関西中部 株式会社（四日市市）
リーダー

業種
建築一式工事

事業所
ミサワリフォーム関西中部 株式会社
三重県四日市市赤堀２丁目 6-19
http://reform.misawa.co.jp/kansai-chubu
社員数：175 名

Profile

- ミサワホームグループで勤続 23 年
- 育休復帰後も新築営業部署で活躍
- 2017 年に第２子を妊娠・出産
- 同年より『育休カフェ』を開催中

講演・相談可能分野

☑仕事と家庭の両立　☐育ボス
☐人材育成　☐障がい者雇用　☐起業
☐NPO 設立　☐多文化共生
☐地域資源活用　☐防災
☑その他（キャリアアップ・キャリアデザイン）

講演実績

・2017 年　育休ママのつどい「ママのこれからの働き方」（自身が主催者）

「私の使命」

仕事と育児の両立を模索し、勤続 23 年

加藤さんがミサワホームグループに入社したのは 1996 年。「当時はまだ“女性社員は寿退社”という風潮でしたが、私は仕事を続けたいと思っていました」。
加藤さんは 2002 年に第 1 子を出産。この時、産休・育休取得者の社内第 1 号になりました。復帰後は両親・託児所・保育園と頼れるものをフル活用し、住宅営業マンとして土日も勤務。“小 1 の壁”に当たった 2008 年には、日曜定休の法人営業部に異動。
その後、ママ友に助けられながら夜間学校に通い、二級建築士資格を取得。勤続 23 年を迎えた現在は、住宅のリフレッシュから、耐震・エコ・ユニバーサルデザイン改装まで、住宅リフォーム全般を手がける部署で活躍しています。

育休ママの味方！『育休カフェ』を発案

住宅・商用施設の新築営業や、リフォームサロンの店長など、さまざまな仕事を経験した加藤さんに転機が訪れたのは 42 歳の時。「第 2 子を妊娠・出産しました。昔よりずっと充実した社内制度を、この時は利用させてもらいました」。
育休中に加藤さんが注目したのは、自身の経験を生かした社会貢献活動。乳幼児ママの社会参画に取り組む鈴鹿市の NPO 法人『マザーズライフサポーター』の活動にボランティアとして参加し、「会社勤めを続けたいママの力になれるはず」と気づいたといいます。
2017 年 10 月に育休ママが集まる座談会『育休カフェ』を開催し手応えを感じた加藤さんは、定期開催を決定。毎月第 4 木曜日に『育休カフェ』を開いています。

私流リーダーシップ

女性みんなに伝えたい「会社を続けよう」

『育休カフェ』は座談会スタイルで、復職を控えた来訪者の疑問や悩みに応えられるよう、加藤さんは『育休後アドバイザー』の資格も取得しました。『育休カフェ』の話題は主に、鈴鹿市の“保活”の情報交換、復職前の面談で上司に伝えるべきポイントなど。
「働く女性が珍しくなくなった今でも『部署内に育休取得者が他にいない』という声が多く聞かれます。これには私も驚きました」。上の子が高校生になった加藤さんが、積極的に呼びかけていることが一つあります。「会社をやめずに子育てしよう。子どもの夢を応援するにも、お金は必要です」。自身の経験と最新の情報を元に、仕事も子育ても自分らしく続ける方法を、加藤さんはママたちと一緒に考えます。

上司側の視点もまじえ、働き方を考える

課長や店長も経験した加藤さんは、管理者の苦悩も参加者に伝えるようにしています。そして同じママとして“マミートラック”の危険を説きます。「自分の正当性ばかり主張していると、いつか面白い仕事が回って来なくなるよ」。そうならないための方法を一緒に考えます。
鈴鹿市で始まった『育休カフェ』は、他市に広がる兆しもあるとか。「『チャレンジャーズ・アワード 2018』で私の取組を知った勤務先が、興味を持ってくれるように。自社のショールームを使うなど、新たな企画を検討中です」。『育休カフェ』で会社員ママの心が楽になることを願い「できることは何でもお手伝いします」。加藤さんは『育休カフェ』の開催を広く呼びかけます。

（取材時：2018 年 11 月）

こんな講演・相談に対応できます

- ■女性活躍の意識啓発
- ■キャリアデザイン（出産・育児期）
- ■育児中の女性社員のホンネ実例
- ■仕事と育児を両立させるポイント

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB は ここから

尾鷲の『チームあいあい』が介護 ～ 飲食で元気を吹き込む！

25 楠　珠里 さん　Juri Kusu

企　東紀州

特定非営利活動法人 あいあい（尾鷲市）副理事長
株式会社 OCK Ba-mi（尾鷲市）取締役

事業所
特定非営利活動法人 あいあい
三重県尾鷲市矢浜４丁目１-46
社員数：187 人
株式会社 OCK Ba-mi
三重県尾鷲市矢浜４丁目１-４１
社員数：50 名

業種
訪問介護、訪問看護、デイサービス、ショートステイ、居宅介護事業、グループホーム、障がい者支援事業、サービス付き高齢者向け住宅、ほか給食受託、飲食店の受託・経営

みえの輝く女子プロジェクト

Profile

- **出産後介護ヘルパーとして再就職**
- **働きながら准看護師資格等を取得**
- **パートから出発し副理事長に就任**
- **介護・看護・飲食と何でもこなす**

講演・相談可能分野

☑仕事と家庭の両立　☐育ボス
☑人材育成　☐障がい者雇用　☐起業
☐NPO 設立　☐多文化共生
☐地域資源活用　☐防災
☑その他（キャリアアップ・キャリアデザイン）

講演実績

「私の使命」

介護・看護・飲食店を行き交い現場に立つ

2000 年に始まった介護保険制度。楠さんは 2002 年に、NPO 法人あいあいに入社しました。パートのヘルパーから出発し、17 年経った現在は副理事長に。人手不足の部署への異動を買って出て、30 代でケアマネージャー・介護福祉士の資格を取得。38 歳の時には看護学校に入学。
最近では、関連会社の株式会社 OCK Ba-mi が運営する飲食店に出勤することも。「朝には注射を打ち、昼にはうどんを打つ。面白いでしょ」と笑い飛ばします。
入社してからいつも、子育てとの並行作業でした。「とにかく楽しかったんです、仕事が。私が思い描いていた"介護"のイメージをガラリと変える、明るさと活気が『あいあい』にはありました」。

カリスマ理事長の夢を、チーム一丸で追う

『あいあい』は、近年躍進する尾鷲の介護事業法人。看護師だった湯浅しおりさんが、"24 時間・365 日の在宅ケア" を掲げ 2001 年に独立開業しました。
役員 8 名は、全員が子育て世代の女性たち。2013 年には 7 階建てのビル『あいあいの丘』を建設し、湯浅さんは "住民 2 万人の尾鷲で 200 人の雇用を創出したカリスマ理事長" として知られています。
2017 年には OCK Ba-mi を創業し、飲食事業も展開。翌年には 3 階建てビルも建て、障がい者雇用にも力を注ぎます。
楠さんは、自身の 17 年間の努力ついて、一言で言い切りました。「理事長の夢を、私も一緒に見たい。私はカリスマ理事長に惚れてしまったんです」。

私流リーダーシップ

手探りのリーダーから、現在は副理事長に

楠さんが初めてリーダー職に就いたのは、パートの介護ヘルパーとして半年ほど経ったころ。「理事長から『ヘルパーのチームを作ろう』と声を掛けられました」。この時から楠さんは正社員に。初めてのチーム員は 5 名で、全員が育児中の女性達でした。
一方、顧客は介護保険制度の影響で、ひと月で 20 件、半年で 100 件と急増。「急遽ママ友を勧誘して、チームは 20 名まで膨らみました。慣れないリーダー職に、てんてこ舞い！」。
楠さんは、チームワークづくりの一環として、申し送りの連絡を 1 人ひとりに直接電話していたと振り返ります。近年多くの会社で導入される "1on1 ミーティング" を、楠さんはごく自然に実践していました。

リーダーの極意は「ありがとう」

リーダーの極意をたずねると「むしろ助けてもらってばかり」と楠さんは笑います。「介護、看護、飲食、管理職。どれも "人対人" です。『ありがとう』って言われると嬉しいし、『ありがとう』と言われる私は幸せ者！ だから困り事が発生したら、その時は私が飛んで行かなアカン」。
シンプルな言葉から浮かび上がるのは、率先垂範のリーダー像。
「お手本は理事長です。あの人が現場に現れると、社員みんなが『ねぇ私の話を聞いて～』と気軽に話し掛けます。世の理事長って、偉そうでしょ？ 怖そうでしょ？ でも『あいあい』には全くそれがない」。
惚れた人の心意気を、現場の隅まで行き渡らせる。楠さんは、そんな仕事を買って出ています。

（取材時：2018 年 11 月）

こんな講演・相談に対応できます

- **■介護施設における職場環境の整備**
- **■仕事や子育てと並行しての資格取得**
- **■チームの士気を高める方法**
- **■介護におけるクレーム対応**

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB は ここから

電力会社の“女性技術者１期生”として男性チームで26年

26 小林　聖子さん　Satoko Kobayashi

企　中南勢

中部電力 株式会社 電力ネットワークカンパニー
三重支社総務部付
中電配電サポート 株式会社出向（津市）
三重支社スタッフ 副長
事業所
中部電力 株式会社 電力ネットワークカンパニー三重支社
津市丸之内２番21号
https://www.chuden.co.jp
社員数：1,157名

業種
電気事業

Profile

- **中部電力の“女性技術者１期生”**
- **２児の子を育てながら現場職に従事**
- **職場内はいつも男性ばかり**
- **誰もが働きやすい職場づくりに励む**

講演・相談可能分野

☑仕事と家庭の両立　☐育ボス
☑人材育成　☐障がい者雇用　☐起業
☐NPO設立　☐多文化共生
☐地域資源活用　☐防災
☐その他

講演実績

「私の使命」

どこへ行っても“紅一点”作業着の女性

「ちょうど会社が女性の活躍推進に力を入れ始めた頃だったのだと思います」。工業高校卒業後の1992年、小林さんは中部電力グループの“女性技術者１期生”として入社しました。新人研修では多くの女性がいたといいますが「三重支社に配属された女性技術者は３名。営業所では私１人です」。
やがて同期は退職し、以来どこへ異動しても“ただ１人の女性技術者”に。最初に配属されたのは、電柱を新設・移設する設計部署。夏も冬も、山から海まで１人で現場へ向かいました。現在は電柱を新設・移設するための用地・伐採交渉をする関連会社へ出向中。電柱設計に関わった経験から、２つの会社を円滑に繋ぐための役割を担い、業務改善に奮闘しています。

女性目線から意見し、協働を促す

小林さんが出向先で期待されていることの一つが、女性の活躍推進です。出向先の中電配電サポート株式会社には、女性交渉員が２名在籍中。小林さんは自らの経験を伝えるとともに、県内６営業所の女性事務社員が快適に働けるよう、環境改善に努めています。
工具の扱いはお手の物で「ついたあだ名は“小林工務店”！この前は女子トイレに棚を作り、目隠し用の箱を置きました。こんなこと言いにくいですよね、男性上司に」。女性技術者１期生の小林さんは、注目される存在でした。「どこへ異動しても私は有名人」。
不便も多くありましたが、嬉しい事も多かったとか。「配属の挨拶直後から『お前がサトコか！』と親しんでいただいてます」。

私流リーダーシップ

“きちっと”仕事すれば仲間として見てもらえる

仕事内容は男性技術者と同じ。現場へ向かう際は、工具一式を携え、地図を片手に１人で向かいます。「技術職ですから、会社員というより、職人集団という雰囲気です」。
関連会社へ工事発注する業務も多く「荒天時や夜間など、作業をお願いするのが心苦しくなるような場面もしばしば。それでも作業してもらわなければなりません」。作業前には、さまざまな質問が小林さんに投げかけられます。
「『分からない』ではナメられます。勝手に判断すると重大事故に。『やっぱり女では無理だった』と言われないためには“きちっと”やる。それだけは心がけていました」。今でも胸に残る先輩の言葉があるといいます。それは「知識は武器にもなる」です。

チームに溶け込み組織を強化。一緒に苦しむ

現在小林さんが勤務する中電配電サポートは、６営業所に所属する社員約85名が実務を担い、小林さんは業務円滑化のための体制強化を図っています。「私の仕事は、営業所の皆さんに“働きやすくなった”と実感してもらうこと」。
小林さんは、システムの改良、補助マニュアルの作成、意見交換会の実施など、数々の改善策を実行中。チームの強化を目指し、意識的に実践していることが一つありました。「不器用で苦労している姿を、包み隠さず見せるようにしています」。
技術者の小林さんは、チームが一丸となった時の強さをよく知っています。そのため自らもチームに溶け込み、一緒に苦しみ、乗り越え、皆で喜ぶよう心がけています。

（取材時：2018年11月）

こんな講演・相談に対応できます

- **男女とも働きやすい環境整備**
- **男性チームの中での信頼獲得**
- **チームのムード良くする実践例**

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEBはここから

ADHD を乗り越え、誰もが輝ける社会づくりに挑戦中

27 生野　幸 さん

Saki Shono　企　北勢

株式会社 JSK（四日市市）
専任宅地建物取引士

事業所
株式会社 JSK
三重県四日市市大字西阿倉川 1085-1
http://jsk-gp.com
従業員数：16 名

業種
リフォーム業・不動産業・クリーニング業・マンション管理業

Profile

- **34 歳の時に ADHD と診断される**
- **社長に促されテレワークを提案**
- **誰もが働きやすい会社へ導く**
- **目指すは “にじいろ” の社会実現**

講演・相談可能分野

☑仕事と家庭の両立　☐育ボス
☐人材育成　☑障がい者雇用　☐起業
☐NPO 設立　☑多文化共生
☐地域資源活用　☐防災
☑その他（キャリアアップ・キャリアデザイン
離職率の改善・働き方改革の提案）

講演実績

「私の使命」

特性を生かす働き方を社長に提案

これまでに退職は 6 回、原因はいつも人間関係の悩み。生野さんは、リフォーム・修繕業を営む株式会社 JSK で事務員として働いていた 34 歳の時に、ADHD（注意欠如・多動症）と診断を受けました。
「JSK も居辛く、退職を考えた日もありました。それを引き止めてくれたのが齋藤穣助社長です。『どうしたら生野さんの持ち味を生かせる？』と、仕事を続ける道がないか問いかけて下さいました」。
そこで生野さんは思案しました。「1 人でも完結する仕事がしたい。そのためにどうしたらいいか」。以前に取得した宅地建物取引士の資格を生かし、不動産事業の立ち上げやテレワーク（在宅勤務）、業務連絡への SNS の導入などを提案しました。

テレワーク導入で他の社員も働きやすく

生野さんの提案に、社長は「ええやん！」と二つ返事で快諾。2016 年に、生野さんひとりの部署が始動しました。社長は「テレワークはニュースで見る新しい働き方。社員の皆が、きっと便利になると思いました」。
テレワーク導入決定後は、社内の書類や図面をすべて PDF にデータ化しました。これにより、現場技術者が出先からでも図面や書類を確認できるように。特に社長が驚いたのは、求人募集だったと言います。
「“テレワーク可” と記すと、予想以上の応募が来てビックリしました。建築業界は慢性的な人手不足。求人募集にも特別な予算が必要だったのに」。生野さんが提案したテレワークは、会社にも良い効果をもたらしました。

私流リーダーシップ

誰もが輝く “にじいろ” の町を目指して

生野さんの新しい仕事は、主に不動産の売買。商談へは時に直行直帰し、申請書類の提出や物件調査は我が子を背負い出かけます。1 人の仕事を「快い状態」という生野さんは、明るさを取り戻しました。
「会社がユニバーサルデザインに変われたのだから、町全体もできるはず」。生野さんは誰もが輝ける“にじいろ”の社会を目指し、フリーペーパーの制作・発行や、イベント開催にも着手。そこでは自身が ADHD であることを公表し、理解や協力を呼びかけています。
公私ともに仕事が増えた生野さんですが、元気は十分。「これも ADHD の特性の一つ、“過集中” です。デキる人と見られがちですが、他が見えなくなります。理解してもらえたら嬉しいです」。

心の変化によりチャンスも協力者も UP

自身のリーダーシップについて「今まで皆無だった」という生野さんですが、齋藤社長と働き始めてから、変化があったといいます。
「私は “できない人” を責めるのに、社長は “できない私” を黙って見守ってくれます。人への共感を、社長から学びました」。
フリーペーパーの発行やイベントの開催では、今や多くの協力者が集まるように。また ADHD の公表により、仕事でも良い縁ができたとか。
「物件売買の商談に、発達障害やパニック障害などの悩みやハンディを抱えたお客様も来て下さるように。同じような背景があると知ってメールを下さいました」。誰もが輝く “にじいろ” の町を目指す生野さんは、自らの手で夢を着実に前進させています。

（取材時：2018 年 11 月）

こんな講演・相談に対応できます

- **社会的弱者のための職場改善**
- **発達障害を持つ人の特性や働き方**
- **ユニバーサル就労のアイデア**

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB は ここから

女性事務局長が切り盛りする「みかん農家の駆け込み寺」

28 永田　ゆかりさん　Yukari Nagata　企　東紀州

御浜土地改良区（南牟婁郡御浜町）
事務局長

事業所
御浜土地改良区
三重県南牟婁郡御浜町大字下市木 919 番地 10
社員数：3 名

業種
国営農地開発事業造成後の農地及び施設の維持管理

みえの輝く女子プロジェクト

Profile

- **御浜町で子育て中に再就職**
- **みかん農地と設備の管理にあたる**
- **10 年の事務職を経て事務局長に**
- **みかん農家の駆け込み寺を目指す**

講演・相談可能分野

☑仕事と家庭の両立　☐育ボス
☐人材育成　☐障がい者雇用　☐起業
☐NPO 設立　☐多文化共生
☑地域資源活用　☐防災
☑その他（営業課題の解決法）

講演実績

「私の使命」

“みかん団地” の管理人は毎日がドラマ

「年中みかんのとれるまち」として知られる御浜町。町に 331ha もの広大な果樹農地が形成されたのは 1992 年のこと。地域の要請を受け国が造成しました。いわば “農地の団地” です。ここを維持・管理しているのが御浜土地改良区。永田さんが事務局長を務める組織です。
職員は永田さんを含め 3 名で、組合員農家が拠出する賦課金で運営されています。日々の主な業務は、賦課金の管理や共有設備･通路の保全など。日本有数の多雨地帯のため、農地が土砂崩れなどの被害に遭うことも少なくありません。
「猿・猪・鹿・ウサギ・アナグマなど、色々な動物が畑を荒らしに来ます」。近年は農家の高齢化による離農問題も。日々のトラブルは多岐にわたります。

「私にできること」を大切に、“駆け込み寺” を目指す

永田さんは 3 人目の子を出産後、1998 年に事務員として入社しました。当時の事務局長とともに切り盛りするなか、2008 年には事務局長の退職に伴い、自身が事務局長に就任。
「当時の率直な心境は『困った！ 助けて～』(笑)。それまで私は農園に行ったことすらなかったのですから」。例えばポンプなどの設備が不調になると、前事務局長は自身が修理に出向いていました。しかし永田さんには難しい仕事も多数。「自分なりの仕事をするしかないと思いました」。
近年、永田さんの仕事ぶりを知る人が、ある事に気づいたといいます。事務所はまるで “みかん農家の駆け込み寺”。この日もお茶を飲み、談笑して帰る農家さんの姿が見られました。

私流リーダーシップ

現場の声を拾いトラブルを未然に防ぐ

永田さんのリーダーシップは、トラブルが発生しにくい環境づくり。「設備の故障などは、私には対応が難しいのも事実。ならば故障も事故も起こらないよう努力しようと思いました」。
農地には【ポンプの扱いは優しく】や【不法投棄禁止】など、誰でも一目で分かる看板が設置されています。「口頭で注意すると、互いにヒートアップしてしまうんですよね。これは男子を 3 人育てて気づきました」。看板による喚起によって、農家も管理人もお互いが気持ち良く仕事できるようになり、限られた予算を有効に活用できるようにもなりました。
「事務局長の仕事を『女性なのによくやれるね』と言われることがありますが、女性だからやれる事もあると思うんです」。

行政も農家も。皆で農業を話せる場づくり

農地の問題を一番よく知るのは、組合員である農家さん。永田さんは農家さんが来訪すると、お茶を出し、現場の声を拾います。「のどかな日は世間ばなしです。大雨や台風の後は、すごい剣幕でやって来られることも」。
事務局長 3 年目の 2011 年には、紀伊半島豪雨災害を経験しました。「途方に暮れるような出来事でした」。そのため日頃から、県や町の担当者との連携は欠かせません。農家さんと行政機関の双方と連携を深める中で、昨今の農業をとりまくさまざまな課題（獣害・設備老朽化・農家高齢化）が見えてきました。永田さんはお茶の支度をととのえ、今日も多くの知恵が寄せられるのを待っています。

（取材時：2018 年 11 月）

こんな講演・相談に対応できます

- **土地改良区の紹介**
- **農業をとりまく課題と解決法の紹介**
- **“農家の駆け込み寺” の展望**

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB は ここから

英語力ゼロから“憧れの海外事業”のキーパーソンに！

29 山川　裕未 さん　Yumi Yamakawa　企　北勢

株式会社 萬来トレーディングコンサルタント（四日市市）
（ミナミ産業 株式会社内）営業部長

事業所
株式会社 萬来トレーディングコンサルタント
三重県四日市市東新町 3-18
http://www.banrai-tc.co.jp
社員数：5 名

業種
貿易業、
コンサルティング業

みえの輝く女子プロジェクト

Profile

- **3 人の子育てをしながら再就職**
- **営業職に転属し、海外事業を志願**
- **27 カ国へ自社製品の販路を開拓**
- **分社化した貿易会社で営業部長に就任**

講演・相談可能分野

☐仕事と家庭の両立　☐育ボス
☐人材育成　☐障がい者雇用　☐起業
☐NPO 設立　☑多文化共生
☑地域資源活用　☐防災
☑その他（キャリアアップ・キャリアデザイン）

講演実績

- 2017年「再就職して働く女性＆これから働きたい女性の為の働き方を考えるサロン」スピーカー（株式会社百五総合研究所）
- 2018年「国際化促進インターンシップ事業成果事例セミナー」スピーカーパネラー（経済産業省、日本貿易振興機構（ジェトロ）名古屋貿易情報センター、株式会社パソナ）
- 2018年「国際化促進インターンシップ事業受け入れ企業募集説明会」事例紹介スピーカー（経済産業省、日本貿易振興機構（ジェトロ）三重、株式会社パソナ）

「私の使命」

長年の夢を叶え、貿易事業に従事

萬古焼の『萬来鍋』と豆乳を武器に、ニューヨークやパリへと飛び、貿易事業に取り組んできた山川さん。一見すると華やかな仕事ですが「重い荷物を抱え、レストランへのデモンストレーション営業で一日中歩き回ります」。
山川さんはミナミ産業株式会社の営業社員として、製品販売に長年携わってきました。食品の海外展開は会社にとっても初めての挑戦。すべて手探りだったと山川さんは振り返ります。「初めてだからこそ、チャンスだと思いました」。
父が外国映画看板の絵描きをしていたこともあり、小さい頃からずっと海外に憧れていたという山川さん。「豆腐業界から貿易業務や海外営業に携わるようになるとは想像していませんでした」。

豆腐の“可能性”と“美味しさ”を、世界中に広げる

2003 年にミナミ産業へ入社した山川さんは、翌年に営業職へ異動。展示会のブース出展や、通販番組への売り込みなどを経て、ニューヨーク行きのチャンスを掴んだのは 2007 年でした。
「社長の随行として、日本食を PR する展示会に参加しました。豆腐に見向きもしない米国人に向け、社長と相談し提供したのは、砂糖入り、メープルシロップとクッキーを添えた『豆腐スィーツ』。試食配布し、現地の人々から大きな反響を呼びました」。
その熱気を肌で感じた山川さんは、帰国後すぐにヨーロッパ展開の企画案を立てたといいます。「私達の仕事は、豆腐の“可能性”と“美味しさ”を広げることです」。会社は現在、27 カ国への輸出実績を誇ります。

私流リーダーシップ

実は臆病。だからこそ絆づくりで問題解決

「実は私、英語が全くできないんです！ それに臆病なタイプ」。
山川さんが海外出張で最初に困ったのが、ランチだったといいます。「どこへ行けばいいのか」。
そんな経験から身についた特技が、“人と繋がること”。展示会の出展者に日本人女性を見つけたら、進んでランチに誘いました。「海外で知らない人に助けてもらった経験があるので、日本では困っている外国人に声をかけます」。
営業先のレストランでも、“個と個で繋がる”意識で接したといいます。
「海外の厨房もまだまだ女性が少ないので、特に女性シェフ・女性料理長には歓迎されます」。その縁は、山川さんが部長になった今も続いています。「グローバルな繋がりができました」。

“乗り越える背中”見せ、次世代を育成

ミナミ産業は豊富な貿易実績を糧に、2013 年に分社を設立。山川さんは株式会社萬来トレーディングコンサルタントの営業部長になりました。若手が入社し、2017 年からは海外からの研修生の受け入れを開始。
「皆、親子ほど年の離れた若い子達です。はじめは戸惑いましたが、“個と個”で通い合える手応えも感じています」。
現在はマネジメント業務が中心ですが、今も人脈を広げ、後進に示します。そんな姿を 3 人の子ども達もしっかり見ていました。「みんな、私が喋れない英語を上手に使えるようになりました。海外で仕事をしている子もいます」。壁を乗り越える術を背中で示しながら、山川さんは次世代を応援しています。

（取材時：2018 年 11 月）

こんな講演・相談に対応できます

- **食品輸出のノウハウ**
- **海外販路開拓の戦略づくり**
- **地場産業と連携した商品開発**

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB は ここから

入社４年目の私が１人から始めた、会社の“変革”！

30 横関　美香 さん　Mica Yokozeki　企　伊賀

光洋メタルテック 株式会社（伊賀市）
人事部多様性推進グループ 主任、人事グループ 主任

業種
輸送用機械・機具 部品製造、ベアリング・ステアリング部品の製造

みえの輝く女子プロジェクト

事業所
光洋メタルテック 株式会社
三重県伊賀市佐那具町１６２６番地
http://www.koyo-mt.com
社員数：470 名

Profile

- **2014 年 42 歳で現在の会社に入社**
- **会社改革を目指し１人で社長に直訴**
- **社内へのダイバーシティ＆インクルージョンの浸透に奮闘中**

講演・相談可能分野

☐仕事と家庭の両立　☐育ボス
☑人材育成　☑障がい者雇用　☐起業
☐NPO 設立　☐多文化共生
☐地域資源活用　☐防災
☑その他（キャリアアップ・キャリアデザイン）

講演実績

「私の使命」

「社長、私に会社を変えさせて下さい！」

横関さんの職歴は、豊富で華やか。「関西の大手通販会社では、新人研修担当とコールセンターのスーパーバイザーに就いていました。その後就職したフィットネスクラブでは、店長に」。
しかし家庭の事情で転居した伊賀市では、これまでのやり方が全く通用しなかったといいます。伊賀での就職先は、創業半世紀の車両部品メーカー、社員数約 450 名の光洋メタルテック株式会社でした。
「仕事に疑問や異論を唱えても暖簾に腕押し。組織の論理に縛られて、個の意見はどこにも届かない」。
思い余った2018年に、入社４年目の横関さんは１人で社長室に乗り込み、啖呵を切りました。「社長、この会社はおかしいです。私に会社を変えさせて下さい！」。

会社を変えることが、会社への恩返し

勇気を奮ったきっかけは、自身の“がん”の寛解でした。「2016 年にがんが見つかり、臓器摘出手術を受けました。職場復帰後もしばらくは体調が戻らず、休憩時間に車で横になったことも。この時に初めて私は、自分が死ぬことを意識しました」。
体調の回復を実感できたのが 2018 年 5 月。文字通り“死ぬ気になれば何でもできる”精神で社長に訴えかけたといいます。諦めて転職する道は、全く考えませんでした。
「40 歳を過ぎた私を雇用してくれた会社に対する恩があります。受けた恩は行動で返すべき」。横関さんが目指したのは、誰もが憧れる良い会社。働きがいがあり、社員が生き生きした会社。横関さんの挑戦が始まりました。

私流リーダーシップ

仲間を募り、理解の波を徐々に広げる

横関さんは社長（当時）に諭されました。「会社を変えたいなら仲間をつくれ」。その言葉を受け、早速仲間の勧誘を開始。同僚の萩森康成さんと藤岡佑介さんに声をかけました。「2 人とも部内で人望の厚い人です。私の思いを汲んでくれました」。
その日から 3 人は退勤後に集まり、会社の改善点を洗い出しました。挙がった主な内容は、形骸化した書類・会議・研修の見直し／働きがいの向上／目標の共有／環境改善など。これらの問題を 5 年で解決するロードマップを作成。離職率の低下や、会社に対する愛着度の向上が望めることを提案書にまとめました。
3 人で仕立てた提案書は、専務に受理され、経営会議を経て即日採用されました。

学びを忘れず自分が“自律型人材”になる

会社は速やかに改善策を実行しました。主には、①多様性推進チームの新設 ②専門家によるダイバーシティ研修 ③課長と部下が 1 対 1 で対話する『1on1 ミーティング』④朝の挨拶運動 ⑤女性社員の社外研修への参加など。横関さんは人事部社員として、①②④⑤を担当します。
「ダイバーシティ推進者として間違ったことを伝えてしまわないように」と、キャリアコンサルタント養成講座などを受講中。『自律型人材育成ファシリテーター』の資格は、専務や社内の賛同者 4 人で取得。「私が言いたいことは一つ『みんなが幸せになればいいじゃん』」。
1 人で始めた戦いは、仲間ができ、上司にも見守られるように。横関さんの挑戦は、まだ始まったばかりです。

（取材時：2018 年 11 月）

こんな講演・相談に対応できます

- **■会社を変える具体的改善策**
- **■会社に響く提案書作成**
- **■自律型人材を目指す社内啓発**
- **■社員研修（秘書検定準１級・労務管理士資格あり）**

お問い合わせ先

三重県　ダイバーシティ社会推進課
TEL：059-224-2225
WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEB は ここから